科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
			ABITICAL PROPERTY OF THE PROPE		
71001	学校教育の課題と教員	T		2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 前 期	火曜6限 火曜7限	講義・討論	松橋 淳		
科目ナンバリ ング					
科目区分	共通科目				
ИПЕЛ	すべての学生が共通に	こ履修する科目			
授業概要	教育実践を学校組織の中軸として担うことのできる資質能力を形成するために、今日の社会における学交教育の在り方についての深い理解と教員の責務についての強い自覚を促すことを目的とする。 学校は地域社会の住民および子どもの保護者の信託を受けて行われるものであり、住民・保護者の求めるところを的確に把握するとともに、これを教育の専門家として適切に受け止める力が必要とされる。学校は組織体であり、適切なリーダーシップ・マネジメントのもとに教員の相互協力によって運営されるものである。中軸となる教員には、リーダーシップ・マネジメントと相互協力の両面において相応の力量が求められる。学校は子どもを中心とする教育実践の場であり、教育の基本は子どもの確かな成長発達を実現することである。 教員には、こうした学校教育の課題に応えるべく、不断に自己を省みて、向上させようとする努力とそれに向けての意欲を欠かすことはできない。 そこで、視野を広げるために、教育界にとどまらず、さまざまな領域の人材を招き、質疑、討論による授業構成を基本として、課題把握、自己把握を促すこととする。				
対応するディ プロマ・ポリ シー	1 学校現場における諸課題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たることのできる、高度専門職業人としての知識、研究・実践力。				
到達目標	(1) 各学校の課題を明確にし、課題解決に向けての手だてを見出す。 (2) 自らの実践を概括し、資質能力の向上に向けての課題を探る。 (3) さまざまな教師像に接し、自らを省みるとともに、向上への示唆を得る。 (4) さまざまな人間像に接し、視野を広げ、向上への示唆を得る。 (5) 今日の社会における学校と教師の役割について深く理解する。				
授業計画	第1,2回:授業ガイダンス及び講義・討論「理論と実践の往還の意義について」本学教職大学院のキーワードである「理論と実践の往還」の意義を考察するとともに、学校課題、自己課題を踏まえた学校改善の在り方について検討する。 第3,4回:講義・討論「学校改善に関する研究の動向①」教育行政の視点から、教員に求められる資質能力とは何か、今学校現場に求められている課題とは何か等について最新情報をもとに理解を深めるとともに、各学校の各校の学校改善の方向性について検討する。 第5,6回:講義・討論「異業種に従事する人々から学ぶこと」会社経営者、起業家、ボランティア活動家など、異業種に従事する人の「仕事や人間関係での工夫、悩みや生きがい」などに触れ、自らの教師人生を振り返るとともに、これからの学校教育や教員の在り方を検討する。 第7,8回:講義・討論「生徒指導や危機管理対応などの課題解決事例から学ぶこと」いじめ・不登校、保護者や地域住民からの理不尽な要求、暴力行為など、生徒指導や危機管理、学級経営に関わる諸課題の解決が喫緊の課題となっている。これらの課題の解決にどのように取り組んだかという事例を通して、これからの学校教育の在り方を検討する。 第9,10回:講義・討論「教職員の現代的課題事例から学ぶこと」今日、「教職員の業務の適正化」「メンタルヘルス対策」「不祥事の防止」等が喫緊の課題となっている。これらの課題の解決にどのように取り組んだかという事例を通して、これからの学校教育の在り方を検討する。 第11,12回:講義・討論「学校改善に関する研究の動向②ー『役割体験学習』の研究を中心に一」従来の体験学習を改善し、深い学びを実現する「役割体験学習」。社会的役割を重視するこの研究について理解を深めるとともに、各校の学校改善の方向性について検討する。 第13,14回:講義・討論「世界の教育改革の動向:フパランドの教育政策について理解を深め、日本の教育改革のトリンのが講を収めてきたフィンランドの教育政策について理解を深め、日本の教育改革の在り方等を考える。 第15回:発表・討論・講評「各学校の課題と自己の資質能力に関する課題の交流と講評及び総括」これまでの講義を概括し、今日の学校の課題と教員の役割について検討する。				
成績評価	・出席点、話し合いへの	の参加態度、発言内容、	は成立の表現の役割について検討する。 レポート等による総合評価を行う。 担当者が成績の評価を行う。		

教職チェック リスト	
テキスト	なし
参考文献	教育改革の各種答申、文部科学省の施策等 『効果のある学校』 、『力のある学校』、『学校改善マネジメント』等
関連する授業 科目	3 Q「これからの時代の学校教育の在り方-学校課題と学校改善計画-」
オフィス・ア ワー	授業終了後、必要に応じて各キャンパスで設定する。
備考(履修上 の注意等)	(主)松橋淳(札幌校)、井門正美(札幌校)、北村善春(旭川校)、竹林亨(釧路校)、中村吉秀(函館校)、杉本任士(函館)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

F	I		T.,	T	
科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71002	「生きる力」を育む学績 課題	以・学年経営の実際と 		2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 前 期	土曜2限 土曜3限	講義・演習	杉本 任士		
科目ナンバリ ング					
科目区分					
授業概要	今日の学校経営では成果管理は必要不可欠であり、学校が掲げる教育目標は学級・学年経営によって具現化される。そのため学級・学年経営は学校組織の基本単位であるとともに、その役割のあり方が問われている。そこで本授業では教育政策「生きる力」を出発点として学年・学級経営のあり方について検討し、課題の発見やその具体的解決方法について考察していく。				
対応するディ プロマ・ポリ シー	学校現場における諸課題 とのできる、高度専門職		や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解 「究・実践力。	夬に当たるこ	
到達目標	b 勤務校における学級 (2)a教育政策としての「	I)a 学校全体における学級・学年経営の役割と課題を整理できる(ストレート)。 b 勤務校における学級・学年経営の役割と課題を整理し、改善の方策を立てることができる(現職) 2)a教育政策としての「生きる力」と学級・学年経営の関連性を整理することができる(ストレート) b教育政策としての「生きる力」を勤務校の教育活動に具現化し学級・学年経営の課題を整理できる。 (現職)			
授業計画	第1週 4月11日 第1回 授業構成・内容についてのガイダンス 第2回 「生きるカ」を育む教育を行う際の課題の整理(杉本) 第2週 4月18日 第3回 生きる力を育む学年・学級経営案の意義とその課題(杉本) 第4回 講義を踏まえたうえでの各キャンパスでの演習・討論 第3週 4月25日 第5回 学校体制と学級・学年経営①(杉本) 第6回 講義を踏まえたうえで各キャンパスでの演習・討論 第4週 5月2日 第7回・第8回 生きる力を育む学級・学年経営の具体的実践(院生発表・交流) 第5週 5月9日 第9回 学校体制と学級・学年経営②(ゲストティチャー①) 第10回 講義をふまえた上での各キャンパスでの演習・討論 第6週 5月16日 第11回 学校で組織的に取り組むSW-PBSの理論と実践(杉本) 第12回 講義をふまえた上での各キャンパスでの演習・討論 第7週 5月23日 第13回 学校体制と学級・学年経営③(ゲストティーチャー②) 第14回 講義をふまえた上での各キャンパスでの演習・討論				
	第15回 発表総括(副哲 出席点,話し合いへの参				
教職チェック リスト	,				
テキスト	なし				
参考文献	授業中随時提示する				
関連する授業 科目					
オフィス・ア ワー	授業終了後各キャンパス	て設定する。			
備考(履修上 の注意等)	な意見交換が望まれる。		うためにも,常に課題意識を持ち同時に院生[多山(札幌)安井(釧路)	司士で積極的	
教育実習やイ					

ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
71003	学びとカリキュラム			2.0		
開講期			1			
2020年度前期	土曜4限 土曜5限	講義・演習	姫野 完治			
科目ナンバリ ング	<u> </u>					
科目区分	共通科目 すべての学生が共通に	履修する科目				
授業概要	教育課程編成の原理や歴史的変遷,その背景にある学習論や学力論,そして現在進められている教育改革について理論的,実践的に学ぶとともに,コンピテンシー・ベースのカリキュラムを構想する。					
対応するディ プロマ・ポリ シー						
到達目標	の教育改革や学力調査の 方法論を獲得する。)成果と課題を検証する	理解を深め,国内外で進められるコンピテンジ とともに,学校や地域の実態に即した教育課程			
授業計画	 ①オリエンテーション・自分の学び観を振り返る ②国内外のテストから見える学校教育の未来 ③全国学力・学習状況調査からわかること ④自校の教育課題と学力向上策を考える ⑤教育課程改革の歴史 ⑥北海道の教育課程編成の現状と課題 ⑦コンテンツ・ベースとコンピテンシー・ベース ⑧これからの学校教育の学びを考える(発表と交流) ⑨小中校を貫くキャリア教育 ⑩カリキュラム・マネジメントの実践 ⑪言語科目の体系とカリキュラム・マネジメント ⑫主体的で対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメント ⑬主体的で対話的で深い学びの視点からの授業改善 ⑭地域連携型カリキュラムの構想 ⑮構想したカリキュラムの交流 					
成績評価	 ・課題1 教育課題と学力向上策を考える(A4・1枚)(20点) ・課題2 これからの学校教育を考える(A4・1枚)(20点) ・課題3 コンピテンシーベースのカリキュラムの創造(40点) ・授業後のリフレクションシートの内容(20点) それぞれの課題、リフレクションノートの内容について、ルーブリックをもとに点数化するとともに、各点数を合計し、100~91(A),90~80(B),79~70(C),69~60(D),59点以下(F)で評価する。 なお、欠席1時間につきマイナス3点とし、4時間以上の場合は別途課題有。 					
教職チェック リスト						
テキスト		こだしが、関連する書籍	 等については授業中に適宜紹介します。			
参考文献	石井英真(2015) 今求められる学力と学びとは、日本標準田村知子(2014) カリキュラムマネジメント、日本標準ドミニクほか著、立田慶裕ほか訳(キー・コンピテンシー)、明石書房松下佳代(2010) <新しい能力>は教育を変えるか、ミネルヴァ書房マルザーノほか著、黒上晴夫ほか訳(2013)教育目標をデザインする、北大路書房三藤あさみほか(2010)パフォーマンス評価にどう取り組むか、日本標準					
関連する授業 科目	教科教育の実践と課題、	指導と評価の実践的展	開、「総合的な学習の時間」を創る			
ワー	木曜日3限を原則としますが、それ以外の時間、もしくはメールで問い合わせていただいても構いません。					
の注意等)	姫野(札幌校)、水上 ※主担当は姫野。	姫野(札幌校)、水上(旭川校)、梅本(釧路校)、橋本(函館校)の4人で担当する。 ※主担当は姫野。				
教育実習やイ ンターンシッ プ等						

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71004	教科教育の実践と課	題		2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 前 期	火曜6限 火曜7限	講義および演習	前田 輪音		
科目ナンバリ ング					
科目区分	共通科目 すべての学生が共	通に履修する科目			
授業概要	受講生自身の作り上げたい授業のイメージを豊かにするために、各担当者が理論・実践またはいずれかにおいて培ってきた授業づくりや授業研究のポイントを、様々な教科・科目等の授業の具体を示しながら解説することを通して、子どもの興味・関心や探究力の育成を大切にした授業づくりの在り方を示す。				
対応するディ プロマ・ポリ シー					
到達目標	職・SM) 2. 受講者自身の授 図る。(現職・SM) 3. 学校の教育課程	2. 受講者自身の授業実践能力の向上と併せて、学校における授業づくりの推進者としての能力の形成を図る。 (現職・SM) 3. 学校の教育課程の中核となる各教科の授業について、その設計、実行、評価を指導的立場から適切に			
授業計画	図る。(現職・SM) 3. 学校の教育課程の中核となる各教科の授業について、その設計、実行、評価を指導的立場から適切に遂行できる能力を身に付けさせる。(現職) 第1週 6月9日(火) 1時間目 ガイダンス(進め方・シラバス解説・担当者紹介) 前田教科教育についての実践と課題 野寺 2時間目 小学校社会科授業の構想(演習・交流) 野寺 第2週 6月16日(火) 3時間目 横断的な視点を意識した理科教育のあり方 森 4時間目 技術科教育はじめ技能四教科について 阿部 第3週 6月23日(火) 5時間目 小学校英語教科化に向けた教材および指導・評価方法の開発 - 附属学校との連携 - 梅本・萬谷 6時間目 子どもたち一人一人の体力・運動能力の向上を図る体育科の学習指導 小松 第4週 6月30日(火) 7時間目 ブログラミング教育 橋本 8時間目 教科教育を想う一北海道各地の学校訪問から 水上 第5週 7月7日(火) 9時間目 質を高める授業づくりの在り方〜算数・数学科の授業実践を通して〜 松橋 10時間目 教材の素材と討論のあり方を考える - 中等教育の社会科を中心に 前田 第6週 7月14日(火) 11時間目 各自の授業構想を交流(各キャンパス)…担当教員が院生各自の構想を聞きだし支援 12時間目 院生各自が自分の指導構想を指導案にする(各キャンパス) 第7週 7月21日(火) 13時間目 キャンパスつないで発表・交流 講評など 第8週 7月28日(火) 15時間目まとめと最終課題				
成績評価 教職チェック	割) により、各キャ いずれにおいても、	ンパスの担当者間の協	議に基づき成績を評価する。 な意見・思考を求める。		
リスト					
			,アナウンスの上、ポートフォ		

	場合もある。
参考文献	その都度、提示する。ポートフォリオにアップされる場合もある。
関連する授業 科目	共通科目であるが、主に授業開発分野に関連している。
オフィス・ア ワー	講義の前後を中心に各キャンパス担当者で適宜設定する。
	共通科目なので、必修ゆえに、必ず単位をとってください。
の注意等)	前田(主担当)・野寺(札幌)、水上(旭川)、森(釧路)、阿部(函館) 大学院内協力者:松橋(札幌)、梅本(釧路)、小松、橋本(函館) 既設大学院担当協力者:萬谷(札幌)
教育実習やイ	
ンターンシッ プ等	
宝 務経験	経験あり
> 1/1/11:Ten/	野寺、水上、梅本、小松、は実務経験者であるゆえに、それぞれの専門の教科・科目に即した具体的実践 の経験を有しており、より具体的な自分自身の授業実践を紹介・検討の機会をつくることができる。

71005 特色ある学校づくりと相談の活性化を同る学 Practices and perspectives of school management in the creation of School with C 校経営 知識を	科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
71005 特色ある学校ブくりと組織の活性化を図る学 向agement in the activation of the school system							
「加速 曜日・時限 現業形態 担当教員 対点 の学生が批選に履修する利目 学校の教育日標を実現するための和推薦の主活会ともに、学校組織マネシメントの基本的な考えた実現もの課題、学校経営を刊所に進めるための学校の推薦でいて具体的に考察し、学校経営を刊所に進めるための学校の推薦でいて具体的に考察し、学校経営をプロマ・ポリ 学校の教育日標を実現するための理解、学校経営、生経治療、教育相談) の改善・向上の 財産日本 世長の本学女・クリ 及び 「学校理報」を上のの担意、学校経営 (理業・教力・の主義・高度専門職業人としての知識、研究・実践力。 学校理信託 (対象の政策力) としての出題、研究・実践力。 学校理信託 (対象の政策力) としての出題、研究・実践力。 学校理信託 (関連会・変) 学校 (理業・政・学校経営、生経研説、学校経営、年経研説、学校経営 (表別)の改善・向上の財産・・ 対象を対象していて考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2、学校経営のインリ 及び 「学校開酵の活住代」の背景・概要を制御し、学校経営の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2、「特をある学校で、グリ)とは同か・・ 規範の活性をという)」とは同か・・ 規範の活性をとは同か、とのような取制が実現につながるか 特をある学校で、り)とは同か・・ 学校経営の全地でする教育の実践(実践の例)・ 特をある学校で、り) こ学校は、どのように要ねったか〜実践から学ぶ〜特をある学校のと対する教育の表践(関本の例) 「指慮の活性化」の推進で学校は、どのように実現していくか 予報の課金を登り、19年 (日月1日) 「指慮の活性化」を図まり、学校経営の表別・で学校経過でネジメントとは何か・・ 学校評価を活性ととのように 「日常の教育活動」で生かし、浸透させていくか 売島週 (7月4日) 「対慮の活性化と図る学校の実践(実践の例)・ ・ 発達の活性化と図る学校の実践(実践の例)・ ・ 学校評価を活性と必要な、一 学校の教育活動の改善に生かし、	71005	 特色ある学校づくりと	日織の活性化を図ろ学				
開講開 曜日・時限 規率形態 担当教員 2020年度前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 3 1 1 1 1 1 1				_	2.0		
開議期 曜日・時限 児業形態 担当教員							
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	は まま は は は は は は は は は は は は は は は は は		运 类 下能	<u> </u>			
期日ナンパリング 科目区分 大連科目 すべての学生が共通に履修する科目 学校の教育目標を集取するための組織的・計画的な取組が学校経営であり、その学校経営を「特色ある学校の大り」と「組織の活性化」の二つの視点から考えるとともに、学校組織マネジメントの基本的な考えたと実際上の課題、学校経営を円滑に進めるための学校の危機管理について具体的に考察し、学校経営を推進するための視点を学ぶ、 対応するディ フロマ・ボリ ・ 学校現場における教育活動(授業実践、学級・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の取出を名となる。高度専門職業人としての知識、研究・実践力・の名書・向上の取出を、部職のに動物研及が影域の教育力との連携を構造することで推進する方。の表専門職業人としての知識、研究・実践力・の公善・向上の取出を任じ、の音楽・概要を理解し、学校経営の農業としてのでは、イストレートマスター) 1、「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題とその改善の点のではくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題とその改善の点のでは、フレートマスター) 2、「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題とその改善の点について具体的に考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2、「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・世界と開始と関係で学び、学校経営の課題とその改善の記述(6月13日)「特色ある学校でくりのを通・学校の財子のように受力のたかへ実践から学ぶへ・接合ある学校づくりと「日常の教育活動」でどのように実現していくかの影画(6月27日)「組織の活性化」の指定で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化」の構定で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化と同る学校の実施(実践の例)・労の選(7月1日)「学校経営」の対してはなどの表方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジストの考え方・学校における危機管理」とは何か・リスクマネジストの考え方・学校を高の活性を必要なの対応・学校の活用と課題・病法の派的できる学校でよりでは確定できないまからで表しまから、またのに対していたか・学校を研の活用と課題・第かの別の方法を任じ、の特定・研究の方法をどのように推進するか・学校を確認のではないまたが、学校の表別では、学校をであらに推進をとのように実現するか〜		唯口,内似	以来ル窓	担当教育			
大適科目 対応の学生が共適に配修する科目 学校の教育目標を実現するための組織的・計画的な取組が学校経営であり、その学校経営を「特色ある学校づくり」と「組織の活性化」の二のの規点から考えるとともに、学校組織マネジメントの基本的な考えるための規念を学ぶ。 対応するディ プロマ・ボリ ・ 学校現場における諸謀題について、学校全体や地域を俯瞰して広い現野から分析し、その解決に当たるごとのできる。高度専門開業人としての知識、研究・実践か。 2、学校現場における教育活動(授業実践、学派・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の2、学校理場における教育活動(授業実践、学派・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の3を組を、組織の総合体制及び世級教育力との連接を指することで推進するか。 1、「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の高義や実際上の課題について責体的に考え、整理することができる。(ストレートマスター)2、特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・観要を理解し、学校経営の課題とその改善の視点について具体的に考え、整理することができる。(現職教員の廃生) ・ 学校経営をイメージする ・ 特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 特色ある学校でもの変遷 ・ 学校を創造である学校で大の変選 ・ 実成の持ちとは何か、 ・ 学の組織マネジメント導入の背景と推進 ・ 病辺 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 組織の活性化 Jの推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 組織の活性化を包含学校の実施(実践の例) ・ 組織の活性化を包含学校の実施(実践の例) ・ 組織の活性化を包含学校の実施(実践の例) ・ 組織の活性化を包含学校の実施(実践の例) ・ ・ 単版における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理 」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理 」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校におりる機管理	2020年度 則 期	土曜2限 土曜3限 講義・討論 竹林 亨					
関連部	科目ナンバリ ング						
学校づくり」と「組織の活性化」の二つの視点から考えるともに、学校組織マネジメントの基本的な考え方と実際上の課題、学校経営を円滑に進めるための学校の危機管理について具体的に考察し、学校経営を開発に進めるための学校の危機管理について具体的に考察し、学校経営の基礎等の表しかの機会学ぶ。 1、学校現場における諸課題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たるととのできる。高度等門職業人しての知識、研究、実践力。 2、学校現場における諸課題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たるととのできる。 (選挙・関係・学校経営・生徒指導、教育相談)の改善・向上の取組を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 1、F特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・観要を理解し、学校経営の裏裁やその改善の視点について考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2、F特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・観要を理解し、学校経営の課題とその改善の視点について具体的に考え、整理することができる。 (現職教員の院生) ・ ・ 学校経営 (6月13日) 「学校経営」とは何か・ 授禁計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び・学校経営の課題とそのかっ第3週(6月3日) 「特色ある学校づくり」とは何か・特色ある学校づくりの変遷・学校の特色とは何か、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校がつくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校がらり」で学校は、どのように変わったか〜実践がら学ぶ〜・特色ある学校がらり」で学校はペネジメントとは何か〜・学校組織の活性化とはなどの表が言と推進・第5週(7月4日) 「野秘厳の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか第6週(7月1日) 「学校経営における危機管理の実際 第7週(7月3日) 「学校評価をどのように「日常の教育活動の改善に生かしていくか・第6週(7月5日) 「学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第20回(7月5日) 「学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第20回(7月5日) 「学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第20回(7月5日) 「学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第20回(7月5日) 「学校経営」の実践と課題・ 講義の張り返りとまとめ ・今後の課題(保究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜	科目区分	[· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
及業職署							
大方生寒性上の課題、学校経営を円滑に進めるための学校の危機管理について具体的に考察し、学校経営を推進するため初組点を学ぶ。 対応するティブロマ・ボリシー 1. 学校現場における諸語製造について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たることのできる。高度専門職業人としての知識、研究・実践力。 取組を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 1. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意義や実際上の課題について考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意義や実施上の課題の機能について資体的に表え、整理することができる。 (現地・トヤスター) 2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題とその改善の他点について資体的に考え、整理することができる。 (現職教員の原生) 「学校経営」とは何か・提案計画と授業全体のカイダンス、学校経営の具体の学び・学校経営の課題と考が近くりの変遷・学校の特色とは何か、とのような取組が実現につながるか。第3週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か・そのように変わったか〜実践から学ぶ〜特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜特色ある学校で入りりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか・第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か・学校組織でネジメント場の背景、の背景と推進・捜定される成果と課題・第5週(7月4日) 「経験の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化とのように一手の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理・とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際・第7週(7月16日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校記書の実際と課題・講教の展り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性)へ地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜地域と呼吸を開発(探究の方向性)へ地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜地域と呼吸を開発していたが、第3回のでは、2月10日の整理、振り返りシート)とレボートから総合的に評価を搭算の展開のでの意味を表示していたが、2月1日の発見を表示していたが、2月1日の表によりに表示していたが、2月1日の表によりに表示していたが、2月1日の表によりに表示していたが、2月1日の表によりに表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表に表示していたが、2月1日の表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していたが、2月1日の表に表示していために表示していたが、2月1日の表に表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していると思いと表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示していために表示しているといると思いませんのでは、2月1日の表示していために表示しているといといるといいために表示しているのは表示しているといるといると述えばなりませんのでは、2月1日の表示しているといるといるといるといるといえばなどのは、2月1日の表示しているといるといるといるといえどの	授業概要	学校づくり」と「組織の	D活性化」の二つの視点	なから考えるとともに、学校組織マネジメントの	D基本的な考		
対応するディフロマ・ボリ 2 ・ 学校現場における諸謀題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決にプロマ・ボリ 2 ・ 学校現場における教育活動・授業実践、学級・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の 取組を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 1 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意義や 実際上の課題について考え、整理することができる。 2 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。(現職教員の原生) ・第1週(6月6日) 「学校経営」とは何か ・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び 学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」には何か ・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特をある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・地ごされる成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・演者の提覧と課題 ・演者の歴をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・選者の歴をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・選者の歴をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・選者の歴をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・選者の歴史と課題 ・選者の歴史と課題 ・選者の歴史と課題	汉来似安	え方と実際上の課題、党	学校経営を円滑に進める	らための学校の危機管理について具体的に考察し	ノ、学校経営		
対応するデイリ 会議の できる、高度専門職業人としての知識、研究・実践力・プロマ・ポリ 会学 校現場における教育活動(授業実践・学師・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の 財組を、組織の総合体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 1. 「特色ある学校づくり 及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意義や 実際上の課題について考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2. 「特色ある学校づくり 及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。 (現職教員の院生) 第1週 (6月6日) 「学校経営とくは何か・投業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び・学校経営をイメージする。 第2週 (6月13日) 「特色ある学校づくり 及しな何か・物色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのように変わったか~実践から学ぶ~・物色ある学校づくり プー学校は、どのように変わったか~実践から学ぶ~・物色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか・第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か~学校組織マネジメントとは何か~・学校組織マネジメント導入の背景と推進・想定される成果と課題 ・第5週 (7月4日) 「組織の活性化とどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際。第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題へ対対応・学校評価の活用と課題へ対が応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第6週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・議会の最り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性)~地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか~		を推進するための視点を	ど学ぶ。				
プロマ・ボリシー 2 学校現場における教育活動 (授業実践、学級・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の取組を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 1. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景、概要を理解し、学校経営の意義や実際上の課題について考え、整理することができる。 (ストレートマスター) 2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景、概要を理解し、学校経営の課題とその改善の視点について具体的に考え、整理することができる。 (現職教員の院生) 第1週 (6月6日) 「学校経営」とは何か ・授業計画と授業合体のカイダンス、学校経営の具体の学び・学校経営をイメーシする 第2週 (6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か・特色ある学校づくり」とは何か・特色ある学校づくり」とは何か・特色ある学校づくりの変遷・学校の特色とは何か、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか・第3週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進・規定される成果と課題 ・第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化と同な学校の実践(実践の例)・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・郊和選(7月1日)「学校経営における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・第表の限り返りまとめ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜	対応するディ	1. 学校現場における諸	課題について、学校全	体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その	D解決に		
2. 子校現場における教育活動(皮薬美味、子教・子教経宮、生徒指導、教育組設)の改善・同上の 取組名、組織の脳像体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進するか。 1. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意義や 実際上の課題について考え、整理することができる。 2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。(現職教員の院生) ・第1週(6月6日) 「学校経営」とは何か ・投業部画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でとのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織でオジメント導入の背景と推進 ・規定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化と回る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化と回る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をとのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講示の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜							
取組を、組織の延慢体制及び中巡の教育力との連携を精楽することで発達の意義や実際上の課題について考え、整理することができる。	シー				向上の		
関連目標 2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題とその改画の視点について具体的に考え、整理することができる。 〈現職教員の院生〉 《第1週 (6月6日) 「学校経営」とは何か ・ 授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・ 学校経営をイメージする ・ 第2週 (6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・ 特色ある学校づくり」とは何か ・ 特色ある学校づくり」とは何か ・ 特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 特色ある学校づくり 「で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 特色ある学校で うり 「で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 特色ある学校で うり 「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・ 第4週 (6月20日) 「静色ある学校で うり 下学校は 「実践の例) ・ 特色ある学校で うり を「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・ 第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・ 学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・ 想定される成果と課題 ・ 境が通 (7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践 (実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践 (実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践 (実践の例) ・ ・ 第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理」とは何か ・ ・ 学校評価をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・ 第6週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・ 学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・ ・ 第6週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・ 講教の服り返りとまとめ ・ 今後の課題 (探究の方向性)		取組を、組織の協働体	制及び地域の教育力との	の連携を構築することで推進する力。			
2. 「特色ある学校づくり」及び「学校組織の活性化」の背景・概要を理解し、学校経営の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。〈現職教員の院生〉 ・第1週(6月6日) 「学校経営」とは何か ・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくりまで「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か、学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・規定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・規範の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・銀織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・銀織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・野校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校経的における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営)の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		1. 「特色ある学校づくり)」及び「学校組織の活	5性化」の背景・概要を理解し、学校経営の意	義や		
2. 「特色の合子伝ンへり」及び「子校組織の活性に」の背景・微安を理解し、子校韓國の課題と その改善の視点について具体的に考え、整理することができる。 (現職教員の院生) 第1週(6月6日) 「学校経営」とは何か ・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくり」の変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校で創造する教育の実践(実践の例) ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・規定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化と図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化と図の学校は、どのようにで変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・・乳組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講覧の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜	到達目標						
・第1週(6月6日) 「学校経営」とは何か ・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第6週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) へ地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜					題と		
「学校経営」とは何か ・ 授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・ 学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・ 特色ある学校づくりの変遷 ・ 学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・ 第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・ 特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・ 第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・ 学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・ 想定される成果と課題 ・ 第5週(7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・ 組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・ 第6週(7月1日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校評価の活用と課題への対応 ・ 学校評価をどのように推進するか ・ 学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・ 第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・ 講義の振り返りとまとめ ・ 今後の課題(探究の方向性) 〜 地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		その改善の視点についる	て具体的に考え、整理で	することができる。〈現職教員の院生〉			
・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び ・学校経営をイメージする ・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校でのり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校でのります。 ・特色ある学校でのります。 ・特色ある学校でのります。 ・特色ある学校でのでは、どのように変わったか〜実践していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		○第1週(6月6日)					
・学校経営をイメージする ・第2週 (6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週 (6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくりまる教育の実践(実践の例) ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週 (7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		「学校経営」とは何か					
・第2週(6月13日) 「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校でくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校で創造する教育の実践(実践の例) ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・規定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・ ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(深究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		・授業計画と授業全体のガイダンス、学校経営の具体の学び					
「特色ある学校づくり」とは何か ・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週 (6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校で創造する教育の実践(実践の例)・特色ある学校では、はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進・想定される成果と課題 ・第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際 ・第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題・講義の振り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性)〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜							
・特色ある学校づくりの変遷 ・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化と図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜							
・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか ・第3週(6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・特色ある学校で創造する教育の実践(実践の例) ・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネシメントとは何か〜 ・学校組織マネシメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月1日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネシメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		「特色ある学校づくり」とは何か					
 ○第3週 (6月20日) 「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか・第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進・・想定される成果と課題・第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際 第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価の活用と課題への対応・学校部価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題・講義の振り返りとまとめ・今後の課題 (探究の方向性)へ地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 成績課理価 授業への参加状況 (討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価 		・特色ある学校づくりの変遷					
「特色ある学校づくり」で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜・学校組織マネジメント導入の背景と推進・・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化と図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・・担端の活性化を図る学校の実践(実践の例)・・担端の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題・講教の振り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性)〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 「授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価 「成績評価		・学校の特色とは何か、どのような取組が実現につながるか					
・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		○第3週(6月20日)					
・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか ・第4週(6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か〜学校組織マネジメントとは何か〜 ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 ・第5週(7月4日) 「組織の活性化との者学校の実践(実践の例) ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜							
 ○第4週 (6月27日) 「組織の活性化」はなぜ必要か~学校組織マネジメントとは何か~ ・ 学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・ 想定される成果と課題 ・ 第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか~実践から学ぶ~ ・ 組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・ 第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・ リスクマネジメントの考え方 ・ 学校における危機管理の実際 ・ 第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・ 学校評価の活用と課題への対応 ・ 学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・ 第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・ 講義の振り返りとまとめ ・ 今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 成績評価 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価 							
「組織の活性化」はなぜ必要か~学校組織マネジメントとは何か~ ・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 の第5週(7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか~実践から学ぶ~ ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか の第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 の第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか の第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) ~地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか~		・特色ある学校づくりを「日常の教育活動」でどのように実現していくか					
・学校組織マネジメント導入の背景と推進 ・想定される成果と課題 第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		○第4週(6月27日)					
・想定される成果と課題 (第5週 (7月4日) 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか (第6週 (7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際 (第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか (第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		「組織の活性化」はなぜ必要か~学校組織マネジメントとは何か~					
2							
授業計画 「組織の活性化」の推進で学校は、どのように変わったか〜実践から学ぶ〜 ・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例) ・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜		・想定される成果と課題					
日組織の活性化」の推進で学校は、とのように変わったか〜美践から学ぶ〜・組織の活性化を図る学校の実践(実践の例)・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か・・リスクマネジメントの考え方・学校における危機管理の実際・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題・講義の振り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性)〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜	授業計画						
・組織の活性化をどのように「日常の教育活動」に生かし、浸透させていくか ・第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜	300 T						
 ●第6週(7月11日) 「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ●第7週(7月18日)							
「学校経営における危機管理」とは何か ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 「授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価			このように 1日常の教育	i活動」に生かし、浸透させていくか			
 ・リスクマネジメントの考え方 ・学校における危機管理の実際 ・第7週 (7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題 (探究の方向性)		7,1-7,2 (1,7,3 (1,1,2)					
・学校における危機管理の実際 ○第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ○第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価							
 ○第7週(7月18日) 「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか・学校評価の活用と課題への対応・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ○第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題・講義の振り返りとまとめ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価 							
「特色ある学校づくり」や「学校組織の活性化」の検証をどのように推進するか ・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価							
・学校評価の活用と課題への対応 ・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価) や「学校組織の活性	- 小人 小人 小人 小人 小人 小人 小人 小			
・学校評価をどのように推進し、学校の教育活動の改善に生かしていくか ・第8週(7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価				「ロ」〜〜〜 大声 で「〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜			
 ○第8週 (7月25日) 「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題 (探究の方向性)				な音活動の改善に生かしていくか			
「学校経営」の実際と課題 ・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価			、ノに張進し、子仅の名				
・講義の振り返りとまとめ ・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価			- 課題				
・今後の課題(探究の方向性) 〜地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか〜 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価		- · · · · · - · · -					
~地域と一体となった学校経営の推進をどのように実現するか~ 授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価							
授業への参加状況(討論、発表・発言、話し合いの整理、振り返りシート)とレポートから総合的に評価			- · · · - · · · · · · · · · · · · · · ·	どどのように実現するか~			
成績評価							
成績評価		授業への参加状況(討論		いの整理、振り返りシート)とレポートから終	総合的に評価		
	成績評価	する。					

教職チェック リスト	
テキスト	なし
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
関連する授業 科目	「教師に求められるリーダーシップと同僚性の今日的課題」 「学校組織マネジメントの理論と実際」
オフィス・ア ワー	授業終了後、必要に応じて各キャンパスで設定する。
備考(履修上 の注意等)	(主)竹林亨(釧路校)、喜多山篤(札幌校)、藤森宏明(旭川校)、永澤篤(函館校)
教育実習やイ	
ンターンシッ	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71006	児童生徒理解とその指導	算方法		2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	•	
2020年度 前 期	土曜4限 土曜5限	講義、演習併合型	川俣智路		
科目ナンバリ ング					
科目区分					
授業概要	生徒指導の充実を図る」ついて理解を深めるとと		児童生徒理解について、その意義や具体的な指導 いく授業である。	尊方法などに	
対応するディ プロマ・ポリ シー					
到達目標	・授業を通して、以下に示す3つの資質・能力を身につける。 (1) 児童生徒理解の意義と指導方法について理解を深め、実践的な指導力を身につける。 (2) 集団指導や個別指導の意義や目的について理解を深め、実践的な指導力を身につける。 (3) カウンセリングの具体的な方法について理解を深め、実践的な指導力を身につける。				
授業計画			寅習(第1回〜第12回)とします。講義で吸り 解ができることを期待しています。各回の予定は		
	第1回、第2回 アセスメント(川俣) ・児童生徒理解のために必要な広義のアセスメントについて講義する。聞き取り、観察、心理検査の活用などについて、事例を挙げながら講義し、演習により実践力の向上を目指す(キーワード:アセスメント、観察、環境調整、心理検査)				
	第3回、第4回 校内研究、事例研究のための研究法/学校危機への対応(小沼) ・校内研究や、児童生徒支援の際の事例検討の際には、しっかりとした情報収集とその集約、まとめ方 (研究法)が求められる。講義と演習を通して、研究法についての基本的な考え方と実践の方法を学習する(キーワード:事例研究、インタビュー、自由記述) ・危機管理の手法についての理論と、その理解を深める				
	第5回、第6回 児童生徒支援のための校内連携(三上) ・児童生徒への支援は、本人、その保護者、管理職、担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、SC、SSWなどが連携しながら、外部機関とも協力して実施していくことになる。共有すべき情報、本人や保護者を含めた支援体制の構築、SCやSSWなどの専門職の役割、外部との連携方法について講義と演習を通して学ぶ(キーワード:情報共有、本人や家族を含めた校内支援体制構築、外部機関の役割)				
	第7回、第8回 引きこも		がかけたナスノが出がままれたものが能にちるほ	辛生生七小	

・近年では社会的引きこもりの状態になり、学校はもちろん外出がままならない状態にある児童生徒も少なからず見られるようになった。その対応が難しいためか、科学的根拠のない教員の対応、専門性のない業者による強引な介入、マスメディアによるミスリードも珍しくはない。また、メンタルヘルスが悪く事象を繰り返す児童生徒への対応も求められている。社会的引きこもりのメカニズム、自傷行為の意味とその対応などについて、また両行動の対応の際にキーとなる本人の家族への支援方法について、講義と演習を通して学ぶ(キーワード:社会的引きこもりとその対応、自傷行為の意味と対応、家族支援)

第9回、第10回 子どもの力と主体性を引き出すアセスメントと支援(ゲスト)

・アメリカのニューヨーク州のスクールサイコロジストをゲストに迎えて、子どもの力を最大限に引き出し、社会に貢献できる納税者を育てることを目的とした、アセスメントや支援方法について学ぶ(キーワード:検討中)。

第11回、第12回 子どもを支える教員を支える(寺嶋)

• 児童生徒の理解、支援の際には教員が疲弊して、十分な対応ができないことも大きな課題である。しかし、職員室で十分に教員を支えるシステムや時間的余裕がないために、職務を続けられなくなったり休職に追い込まれる教員がいるのが現状である。子どもを支えるために、どう教員を支えるかについて講義と演習から学ぶ(キーワード:教員支援、事例の共有、ピアカウンセリング、職員研修)

第13回、第14回 各回の理解を深める演習

	・第1回から第12回までの内容の中から、特に興味を持ったと話題について、受講院生同士が協同して内容を深め、その内容を全体にプレゼンテーションを行い共有する。
	第15回 まとめ
	各回の順番が入れ替わる可能性があります。 その場合は詳しくは初回の授業で説明します。
	評価は以下の観点から実施する
成績評価	・事例の討論(全体・各キャンパス)において、事例への理解や対応を具体的に検討でき、多角的な視点で理解できているか(振り返りシートの提出、7回×5% = 35%) ・第13回、第14回のプレゼンテーションの内容 (65%)
	事例討論の理解度に関する自己評価方法、最終課題の評価基準はルーブリックにて示す
	【H29以降学生】子ども(幼児・児童・生徒)の理解 カウンセリングマインドをはじめとする子ども理解を深める教育相談やカンファレンスの基本的な考え 方や進め方について理解する。
教職チェック リスト	不登校(登校拒否)、不安や寂しさを抱えている子ども、「問題」行動を起こす子どもには、多様で複雑な生活条件や生育史や発達における特別な配慮の必要などの背景があることを理解する。 保護者からの相談や問い合わせに誠実に対応することの大切さを理解する。 共感的理解や受容的態度をはじめとする子どもの心を捉える教師の指導や支援の在り方について理解す
	会にはいる。
テキスト	・特に使用しない。講義に必要な資料はパーソナルポートフォリオにて共有します。
参考文献	・授業の中で適宜紹介し、この欄を更新していきます(2020年4月1日記)。
関連する授業 科目	
オフィス・ア ワー	お手数ですが、各教員に問い合わせて下さい。連絡先などは初回の授業で提示します。
備考(履修上	担当教員は以下の通りです。 (主)川俣、小沼(札幌校),木下(旭川校), 寺嶋(釧路校), 三上(函館校)
	授業全般に関する問い合わせ、相談は各キャンパスの教員、または主担当の川俣までご連絡下さい。 教員の主なプロフィールは北海道教育大学研究者総覧から検索して下さい。
教育実習やイ	
ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
71007	生徒指導の意義と今日的	 的課題		2.0		
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員			
2020年度 後 期	火曜6限 火曜7限	実習,演習,講義	稲葉 浩一			
科目ナンバリ ング						
科目区分						
授業概要	私たちが「生徒指導」の対象だった時期を思い返すと、おそらくあまり良い記憶はないのではないだろうか。だが「金八先生」や「ヤンクミ」のような学園ドラマで描かれるのは、生徒指導の場面であったりする。実際いじめや非行、不登校などが問題として話題になるとき、セットで語られるのは学校現場における生徒指導の重要性であるだろう。 このように社会における「生徒指導」の期待と責任は大きなものであり、教育者は「経験」や「勘」の傍らに専門的な理論・知識を携えておく必要があるだろう。そこで本授業では、この「生徒指導」が日本においてどのような理念のもと系統化・実施されているのかをとらえなおしていく。そのうえで「生徒指導」が抱える今日的な課題とその理解の仕方について、考察を深めていく。					
対応するディ プロマ・ポリ シー	学校現場における諸課 とのできる、高度専門		P地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解 ff究・実践力。	決に当たるこ		
到達目標	(1)日本における生徒指導の理念と学校教育活動における位置づけを理解する。 (2)生徒指導の意義と課題を学術的理論をもとに理解する。 (3)今日取り上げられる生徒指導の課題について、定型化された語彙に依存せず多角的に分析できるようになる。					
授業計画	(3) 今日取り上げられる生徒指導の課題について、定型化された語彙に依存せず多角的に分析できるようになる。 第1・2回【講義・討論】 ・生徒指導の理念と意義(1) —「生徒指導」体験の相対化 ①オリエンテーション ②受講生の生徒指導体験 ③『生徒指導提要』における「生徒指導の意義」 第3・4回【講義・討論】 ・生徒指導の理念と意義(2) —『生徒指導提要』の検討 ①『生徒指導提要』における生徒指導の意義 ②社会的自己実現とは何か—「ひとが育つ」ことの理論 第5・6回【講義・討論】・生徒指導と促産生徒の主体性について ①自己指導能力とは何か—「主体性獲得」の理論 ②生徒指導の理念と学校教育の実際 第7・8回【講義・討論】 ・少年非行と生徒指導 ①非行の理論:原因論 ②非行の理論:原因論 ②非行の理論:原因論 ②非行の理論:問係論 第9・10回【講義・討論】 ・非行少年の逸脱キャリアと立ち直り ①少年院収容者の世界 ②矯正教育における立ち直りの支援 第11・12回【講義・討論】 ・いじめについて考える(1) —そもそも「いじめ」とは何か? ①受講生の経験 ②「いじめ」とは何か? 第13・14回【講義・演習】 ・いじめについて考える(2) —「いじめ問題」における最大の「問題」 ①「大津市いじめ事件」を読み解く ②「いじめ自殺」の解体を目指して					

	第15回【講義・討論】
	・振り返り
	*受講生の関心や理解度に適宜対応しながら授業を展開・進行させていくことがある。
成績評価	出席、授業中の参加の程度、課題報告(毎回の振り返りシート、レポートなど)の成績により総合的な評価 を行う。
教職チェック リスト	
テキスト	特定のテキストは使用せず、授業内配付資料に基づき授業を行うが、各自『生徒指導提要』を購入ないし ダウンロードし入手すること。 (授業内で扱う箇所は配布する)
	○授業内において適宜紹介するが、一例として以下の文献の講読を推奨する。○参考文献に限らず、教育事象を相対的な視点から読み解くための文献を日頃から読み進めていくことを求める。
	・広田照幸(監修)『リーディングス 日本の教育と社会』第7巻,北澤毅(編),2007,『非行・少年犯 罪』日本図書センター。
参考文献	* 第8巻,伊藤茂樹(編),2007,
	『いじめ・不登校』日本図書センター。 ・北澤毅,2015,『「いじめ自殺」の社会学』世界思想社。 ・奥村隆,1998,『他者といる技法』日本評論社。
	。なお主担当者(稲葉)のポートフォーリオシステム、キャビネット内に講読を推奨する論文をアップロードするので、受講生は各自の関心に基づいて学修することを勧める。
関連する授業 科目	
オフィス・ア ワー	稲葉(旭川校)は木曜5限とする。他キャンパスの副担当教員については、受講生各自が相談すること。
備考(履修上 の注意等)	副担当:川俣智路(札幌)、室山俊美(釧路)、小田将之(函館)
教育実習やイ ンターンシッ	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
11087	Page 11 1 H		大語符目在 The role of school e		
71008	これからの時代の学校	教育の在り方	ducation in the new	2.0	
			era		
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 後 期	土曜2限 土曜3限	講義・事例研究・演 習	北村 善春		
科目ナンバリ ング					
科目区分					
授業概要	昭和62年、臨時教育審議会の3次答申で「開かれた学校」が提起され、この考え方の延長線上において、平成8年に「特色ある学校」が、平成14年には「信頼される学校」が中央教育審議会から示された。 そして、平成27年12月、3つの中教審答申が出され、文部科学省は3答申を一体的に推進するために「『次世代の学校・地域』創生プラン」を提示している。 また、昭和60年に臨時教育審議会から「個性重視の原則」が示されて以来、各学校では、「基礎・基本の確実な定着」と「個性を生かす教育の推進」を目指し、授業をはじめ教育活動の改善・充実に熱心に取り組んでいる。 そして、平成28年12月、学習指導要領等の改善に関する答申が出され、平成29年3月、新学習指導要領が告示されている。 さらに、教育行政においては、国の責任として教育水準を確保するための基盤整備の充実と、自治体や学校の地域に根ざした教育を主体的に展開する権限や責任の拡大など、義務教育改革が着実に進められている。 そこで、まず約30年にわたる教育改革を振り返り、学校や授業はどう変わってきたのか、そしてこれからどのような学校教育が求められるのかについて考察するとともに、これまでの教育改革の動向を踏まえ、勤務校(実習校)の学校課題の解決に向けた「学校改善計画」を作成する。あわせて「これからの校内研修の在り方」について実践的に学ぶ。				
対応するディ プロマ・ポリ シー 到達目標	2 学校現場における教育活動(授業実践、学級・学校経営、生徒指導・教育相談)の改善・向上の取組を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 (1) 約30年にわたる教育改革の動向を正しく理解し、我が国が目指すべきこれからの時代の「学校の姿」や「教育の姿」を考察することができる。 (2) これらの教育改革の動向を踏まえ、勤務校(実習校)の学校課題の解決に向けた「学校改善計画」を作成することができる。				
	(3) 「これからの校内研修の在り方」について理解できる。				
授業計画	第1・2回: 【事例研究1】「本校の学校経営計画の課題は何か。また、どのように改善すべきか」 【講義】「学校における組織マネジメントの今日的課題」 事例研究から、学校における組織マネジメントの課題について考える。 第3・4回: 【事例研究2】「本校の学校課題は何か。また、どのように改善すべきか」 【講義】「『学校改善計画』を作成する意義と方法」 事例研究から、学校改善計画を作成する意義と方法について考える。 第5・6回: 【事例研究3】「本校の校内研修の課題は何か。また、どのように改善すべきか」 【講義】「これからの校内研修の建題は何か。また、どのように改善すべきか」 【講義】「これからの校内研修の在り方」 事例研究から、これからの校内研修の在り方」 事例研究から、これからの校内研修の在り方について考える。 第7・8回: 【講義・討論】「教育改革で示された『目指す教育の姿』ーこれからの時代に求められる授業像一」 これからの時代に求められる授業像を踏まえ、勤務校(実習校)の授業改善の方向性を検討する。 第9・10回: 【講義・討論】「教育改革で示された『目指す学校の姿』ーこれからの時代に求められる学校像一」 これからの時代に求められる学校像を踏まえ、勤務校(実習校)の学校改善の方向性を検討する。 第11・12回: 【演習】「我が校の学校改善計画」の作成 勤務校(実習校)の課題を踏まえた「学校改善計画」を作成する。 第13・14回: 【発表・交流】「我が校の学校改善計画」の発表・交流 「我が校の学校改善計画」を発表し合い、考察する。 第15回: 【発表・交流】「スクールリーダーとしての私の任務」				
		· · · · · -	-としての私の任務」 :校課題解決のため、スクールリーダーとして	の自分の任務	

	について考察する。
成績評価	・出席点、話し合いへの参加態度、発言内容、レポート等による総合評価を行う。 ・各キャンパスの担当者間の協議に基づき、主担当者が成績の評価を行う。
教職チェック リスト	
テキスト	なし
参考文献	教育改革の各種答申、文部科学省の施策等 『学校改善マネジメントー課題解決への実践的アプローチ-』(ミネルヴァ書房)等
関連する授業 科目	1 Q「学校教育の課題と教員」
オフィス・ア ワー	授業終了後、必要に応じて各キャンパスで設定する。
備考(履修上 の注意等)	(主)北村善春(旭川校),松橋淳(札幌校),安井智恵(釧路校),杉本任士(函館校)
教育実習やイ	
ンターンシッ	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71009	指導と評価の実践的展開		Study of acquisition on practic ility for subject	al leadership ab
開講期	曜日・時限 授業形態 担当教員		L	
2020年度 後 期	土曜4限 土曜5限	双方向遠隔授業 演習	なが 森 健一郎	
科目ナンバリ ング				
科目区分	共通科目 すべての学生が共通	通に履修する科目		
授業概要	主に教科および領域に	おける授業の構想	・実践・評価(改善)等について考え	さる 。
対応するディ プロマ・ポリ シー		•	学級・学校経営,生徒指導,教育相談 集を構築することで推進する力	🖔) の改善・向上の取組を
到達目標	案・遂行・推進するこ	ことができる(現職院 P核となる各教科の!	りな学力を保証するための視点を整理 完生・ストレートマスター)。 受業について、その設計、実行、評価 完生)。	
	第1回(森) ガイダンス(本講義の 教科教育学の視点から 第2回(森)	5「実践的指導力」を	ご考える	
授業計画	評価研究と学習指導要評価の目的,目標,方 第3回 (藤川) 評価観の歴史的変遷 評価の妥当性と信頼性	ī法,方式		
	第4回(各キャンパス ルーブリックを含めた 第5回(各キャンパス ルーブリックを含めた (基準〈内容〉と規準	上指導計画の作成(育) 計導計画の作成(名	後半)	
	第6回(姫野・橋本) 指導と評価を深める 指導と評価を深める		と今後の方向)	
	第7回(担当教員全員 課題発表 授業アンケート)		
	第8回(担当者全員) まとめとレポート課題	建元		
	1 講義終了後の感想・振り返りシートで,見いだそうとしている2 演習への参加・書	その日の授業で身に	こ付けた知見や今後の授業研究・授業	美実践に生かせることなど
成績評価	・建設的な視点から課題を捉え、積極的に演習に参加しようとしている(主にストレートマスター・建設的な視点から課題を捉え、かつ全体の議論を整理して、より実践に即したかたちで提示するできる(おもに現職教員)。 3 まとめのレポート(3割) 講義全体の内容を的確に捉え、論旨の明確なレポートを適切な分量で作成している。			
<u>教職チェック</u>	※各キャンパスの担当			
_{双帆ナエック} リスト				

	・講義資料はその都度必要に応じて配布します。また、アナウンスの上、ポートフォリオに関連資料がアップされる場合もあります。
参考文献	『新しい教育評価入門-人を育てる評価のために』、西岡加名恵・石井英真・田中耕治(編集)、有斐閣(2015) 『「ボクにもできる」がやる気を引き出す』、鈴木誠、東洋館出版社(2012)
関連する授業 科目	M 1 第 1 クオーター「学びとカリキュラム」 M 1 第 3 クオーター「指導と評価の実践的展開」 M 1 第 4 クオーター「『総合的な学習の時間』を創る」
オフィス・ア ワー	月曜日5限を基本としますが、随時実施可能です。
	■実務経験教員担当授業科目 担当教員 札幌(野寺・姫野)、旭川(藤川)、函館(橋本)、釧路(森)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
			Theory and practice in Special Needs Educat	:		
71010	特別支援教育の理解と対応		on	2.0		
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員			
2020年度 後 期	火曜6限 火曜7限	講義及び討論、ワーク ショップ	小野寺 基史			
科目ナンバリ ング						
科目区分						
授業概要		特別支援教育の理念や背景等の基本的な事柄を理解するとともに、発達障害の理解や対応、学校で行われている特別支援教育の実際と効果的な支援内容や方法等について理解を深める。(共通科目:全院生必修)				
対応するディ プロマ・ポリ シー						
到達目標	1 特別支援教育の理念、背景について理解する。2 発達を規定する要因がわかり、発達障害の基本的な状態像を理解する。3 発達障害児へのアセスメントの概要を理解し、アセスメントに応じた指導内容や方法をイメージすることができる。4 医療や福祉等の関係機関における支援の枠組みがわかり、連携の必要性とその在り方について理解する。					
授業計画	第1講: 12月8日(火) 1 オリエンテーション 2 発達障害の理解 ①障がいってなあに 第2講: 12月15日(火) 3 子どもの発達と支援: 発達を規定する諸要因 4 " 第3講: 1月5日(火) 5 発達障害の理解 ②自閉症スペクトラム障害、ADHD, その他の発達障害 6 " 第4講: 1月12日(火) 7 発達障害の理解 ③LD学習障害(LD) 8 " 第5講: 19日(火) 9 アセスメントとはなあに: 観察法、面接法、検査法の理解と活用 10 " 第6講: 1月26日(火) 11 演習: ケース検討会議 12 " 第7講: 1月21日(火) 13 事例発表、検討会(インシデントプロセス法) 14 " 第88講: 2月2日(火)					
成績評価	・各キャンパスの担当者	・出席点、討論等の参加態度、発言内容、討論後のレポート等による総合評価 ・各キャンパスの担当者間の協議に基づき、主担当者が成績の評価を行なう。				
教職チェック リスト	子ども(幼児・児童・4 LD、ADHD、自閉 援をしていけばよいのた	閉症などの発達障害や、	特別なニーズを持つ子どもに対して、どのよ	うな理解と支		
テキスト						
参考文献	07	,	援教育の理論と実践(1)(2)(3)」、金			
関連する授業	青山眞二・五十嵐靖夫・ 特別支援教育コーディネ		達障害児へのピンポイント指導」、明治図書、	2009]		
科目 オフィス・ア ワー	金曜日 5校目 又は、					
	i					

備考(履修上 の注意等)	(主)小野寺(札幌校),吉崎(旭川校),中野渡(釧路校)、阿部(函館校)
教育実習やイ	
ンターンシッ	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71011	「総合的な学習の時間」	を創る		2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	•
2020年度 後 期	土曜2限 土曜3限		藤川 聡	
科目ナンバリ ング				
科目区分				
授業概要			キュラム編成の基本的な視座等を理解するこ。 開発を目指す授業である。	とを通して,
対応するディ プロマ・ポリ シー	学習の時間」のカリキュ	ラムの改善や新たなた	の基本的な視座等を理解するとともに,自校でなカリキュラムを構築することができる。	
到達目標			の基本的な視座等を理解するとともに,自校でなカリキュラムを構築することができる。	の「総合的な
授業計画	第1週総合的な学習の時間とは (本授業の目的及び授業内容の説明) ・学習指導要領解説から、総合的な学習の時間の目的や探究の過程を理解する。 ・総合的な学習の時間における現状と課題についてグループで交流し、課題意識を高める。 第2週総合的な学習の時間の背景と今日 ・総合的な学習の時間が生まれた背景や今日に至るまでの経緯や今後の課題等を知り、同時間の意義や在り方等を理解する。 第3週 小学校におけるカリキュラムの例 ・小学校における実践事例から、総合的な学習の時間における単元構成の基本原理について考える。 第4週 中学校における総合的な学習の時間の授業実践から、現状に即したカリキュラム改善の工夫を知る。 第5週 高校のカリキュラムの例 ・高校を中心にした「総合的な学習の時間」のいくつかの取り組みの紹介と検討。ESD、特に平和教育などに関連するもの。 第6週 カリキュラムの作成 ・総合的な学習の時間の年間計画及び単元計画の作成(演習)。 第7週 作成したカリキュラムの発表・交流 ・各キャンパスにおいて各自が作成した年間・単元指導計画を交流する。 ・キャンパス代表による年間・単元指導計画の発表。 第8週 まとめ			
成績評価	①日々の活動内容・ふり返りシート等:3割 ②年間計画及び単元指導計画:7割 ※各キャンパスの担当教員が評価を行う。			
教職チェック リスト				
テキスト	学習指導要領解説編			
参考文献				
関連する授業 科目				
オフィス・ア ワー	随時	随時		
備考(履修上 の注意等)				
教育実習やイ ンターンシッ プ等				
実務経験				

科目番号	授業科目 英語科目名 単位		単位		
71012	北海道の教育 1.0		1.0		
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 前 期	集中講義	講義と討論、ワークショップ	井門 正美		
科目ナンバリ ング					
科目区分	選択科目 「共通科目」を土	台として, より専門的な知	識・技能を学ぶ科目		
授業概要	域社会の衰退が起こ 学校の統廃合も進ん 本講義では、この ように捉え、展開し か、学校や教師の果 本年度は、教職大 義を予定しています 未定であること、ま と、を書き添えます 本年度は、この点に 集中講義期間 2020	「共通科目」を土台として、より専門的な知識・技能を学ぶ科目 今日、日本が直面している人口減少・少子高齢化は多くの自治体が懸念している問題です。過疎化や地域社会の衰退が起こっているところも少なくありません。こうした状況下では、児童生徒の減少に伴い、学校の統廃合も進んでいます。北海道や札幌市も例外ではありません。本講義では、このような日本の問題状況を捉えて、国も推進する地域創生を北海道の学校や教師がどのように捉え、展開したら良いのか、特に、地域社会と連携してどのような取り組みを行うことができるのか、学校や教師の果たす役割を体験的・協働的なワークショップを通して考究したいと思います。本年度は、教職大学院の教員4名と北海道教育委員会並びに札幌市教育委員会の講師(各1名)による講義を予定しています。ただし、こうした状況下であるため、教育委員会の講師の方を招聘できるかどうか未定であること、また、新型コロナの感染防止のため、Zoomを活用したネット授業を想定していること、を書き添えます。加えて、これまで、北海道の現職の先生方の研修科目として開放してきましたが、本年度は、この点について検討中であることもお伝え致します。			
対応するディ プロマ・ポリ シー	て、学校や教師がど	北海道の教育について地域的特色を踏まえた上で、少子高齢化・人口減少社会における北海道において、学校や教師がどのような取組みや教育実践を行う事が出来るのか、体験的・協働的な活動を通して追究し、提案することが出来る。			
到達目標	①北海道の地域的特色を把握して教育政策や学校教育等について理解することができる。 ②人口減少・少子高齢化社会における北海道の地域や学校教育の課題を捉えることができる。 ③北海道の地域創生に関する学校や教師の取り組みについて議論し提案することができる。				
授業計画					
成績評価	①受講記録カード	て評価し、総合的に判断し (振り返りカード)、②講義			
教職チェック	学習指導力				

リスト	大学の講義・演習などを通して、学習指導に関わる今日的な教育の動向や課題、学校・園の様子、子どもの特質を知る。
テキスト	特定のテキストは使用しない。講義において文献等を紹介する。
参考文献	「ひと・まち・しごと地方創生『長期ビジョン』」「同『総合戦略』」 「北海道人口ビジョン・北海道創生総合戦略」等 「北海道教育推進計画」「北海道総合教育大綱」
関連する授業 科目	学校教育の課題と教員
オフィス・ア ワー	集中講義期間中に随時質問を受け付ける。集中講義後の質問等については、主担当の井門にはメールで質問してください。また各校の担当教員に問合せをしてください。
備考(履修上 の注意等)	集中講義という短期的な講義になりますが、レポート作成に当たっては、レポート執筆及び評価の基準を しっかり確認してください。
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	経験あり 講義担当者は教職大学院の教員は、実務経験のある研究者教員、教育行政や校長経験のある実務家教員等で構成されています。また、北海道教育委員会の先生方は、北海道の教育行政の各部署で活躍している方々です。研究業績や実務経験を活かして北海道の教育課題や地域的特色について講義をします。

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71014	学校組織マネジメントの理論と実際		Theory and Practice of School C on Management	Organizati 2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 後 期	水曜6限 水曜7限	講義、討論、演習	喜多山 篤		
科目ナンバリ ング					
科目区分	選択科目 「共通科目」を土台。	として, より専門的な	知識・技能を学ぶ科目		
授業概要	学校の改善・充実をテーマとして、具体的な事例を取り上げ、「P(現状分析、課題把握、解決策の立案)→D(解決策の実施)→C(結果の評価)→A(修正した解決策の実施)」の問題解決の流れを基本に、意思決定と討論を通して理論知と実践知の関連・融合を図り、新たな理論や方策を生み出すなどして、勤務校の改善・充実を実現する資質・能力を高める。				
対応するディ プロマ・ポリ シー	ることのできる、高度 2 学校現場における	専門職業人としての知 教育活動(授業実践、	全体や地域を俯瞰して広い視野から分 識、研究・実践力。 学級・学校経営、生徒指導、教育相談 携を構築することで推進する力。		
到達目標	2 討論等を通して、動物を応げる。3 討論等を通して、動物を通して、動物を通して、動物を通ります。	1 様々なケースについて、多角的な視点からの解釈、分析を行い、問題の発見力及び分析力を磨く。 2 討論等を通して、参加者全員で建設的に検討することによって、問題解決に向けての自己の考えや発 想の幅を広げる。			
授業計画	「第2週」 第2講・第3講 ケー 「第3週」 第4講・第5講 ケー 「第4週」 第6講・第7講 ケー 「第5週」 第8講・第9講「模擬 「第6週」 第10講・第11講 ケー 「第7週」 第12講・第13講 「第8週」 第14講・第15講 「第8週」 第14講・第15講 「第8週」	- ス教材①についての - ス教材②についての - ス教材③についての 記者会見」(「模擬の - ス教材④についての 「学校改善計画」修正 学校改善計画」修正 が、シートに記入。次	討論及び全体交流 の全体討論、中間のまとめ 保護者説明会」)と課題についての討論 の全体討論 で案の交流① 気の交流②と全体のまとめ で回に紙上交流。	論及び全体交流	
成績評価	・発表・交流・討論への 評価する。	参加状況、記録整理	「板書等」、振り返りシート、・レポ-	- 卜等をを総合的に j	
教職チェック リスト					
テキスト	なし。				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。 ・マネジメント基本と原則【エッセンシャル版】(2001P.F.ドラッカー・著) ・エッセンシャル版ミンツバーグ マネジャー論(2014ヘンリー・ミンツバーグ著・池村千秋・訳) ・リーダーシップ論(2012ジョン・P・コッター著・黒田由貴子・有賀裕子・訳) ・学習する組織 システム思考で未来を創造する(2011ピーター・M・センゲ・著) ・学習する学校 子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する(2014ピーター・M・センゲ、他著) ・学校改善マネジメント 課題解決への実践的アプローチ(2012篠原清昭・編著) ・藤原和博の「創造的」学校マネジメント講座(2014藤原和博・著) ・変わる学校、変わらない学校 学校マネジメントの成功と失敗の分かれ道(2015妹尾昌俊・著)				

	これからの時代の学校教育の在り方 教師に求められるリーダーシップと同僚性の今日的課題
オフィス・ア ワー	授業後に、各キャンパスで設定する。
備考(履修上 の注意等)	主担当 喜多山篤(札幌) 副担当 松橋 淳(札幌)、藤森宏明(旭川)、竹林亨(釧路)、杉本任 士(函館)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71015	学校と家庭・地域との選 題	連携における成果と課		2.0
開講期	曜日・時限	選日・時限 授業形態 担当教員		Į.
2020年度 前 期	水曜6限 水曜7限 講義、演習 安井 智恵			
科目ナンバリ ング				
科目区分	選択科目 「共通科目」を土台 &	として, より専門的な知	口識・技能を学ぶ科目	
授業概要	近年、学校・家庭・地域の連携・協働が求められており、学校支援地域本部やコミュニティ・スクール、地域学校協働本部など、様々な施策が行われている。本授業では、人口減少社会の課題先進地北海道における学校・家庭・地域の連携の意義や課題について検討し、今後の「学校を核とした地域づくり」を視野に地域創造型の学校経営と教員の在り方について展望する。			
対応するディ プロマ・ポリ シー	本学が定める期間在学し、学校現場における諸課題について、以下のような理論と実践に関する高度な専門的能力を身につけることを目的に設定された授業科目のうち、修了に必要な単位を修得した者に学位を授与する。 1. 学校現場における諸課題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たることのできる、高度専門職業人としての知識、研究・実践力。 2. 学校現場における教育活動(授業実践、学級・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善・向上の取組			
到達目標	を、組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力。 ・学校・家庭・地域の連携・協働について、理念や社会的背景を理解し、学校全体や地域を俯瞰して広い 視野から成果と課題について分析できる。今後の「学校を核とした地域づくり」を視野に、地域創造型の 学校経営と教員の在り方について検討する。 ・学校・家庭・地域連携の実践事例について検討し、学卒院生はそこから連携の必要性と妥当性を理解す る。 ・現職院生は、自らの実践を省察し、学校組織の一員としてどのように地域連携に貢献できるかを探求す る。			
授業計画	1. 学校と家庭・地域の連携の必要性 第1回 ガイダンス:安井 第2回 学校・家庭・地域の連携・協働の必要性と概念整理:安井 2. 学校支援地域本部・地域学校協働本部と学校支援ボランティアの成果と課題 第3回 学校支援地域本部・地域学校協働本部の成果と課題:藤森 第4回 学校支援ボランティア活動の課題の検討:藤森 3. 社会に開かれた教育課程における地域の教材の有効性と実践上の課題 第5回 学校の組織的な地域教材の取り込み方・活かし方:藤森 第6回 成果と課題の検討及び交流:藤森 4. コミュニティ・スクールの成果と課題(1) 第7回 コミュニティ・スクールの成果と課題(1) 第7回 コミュニティ・スクールの成果と課題(2) 第8回 成果と課題の検討及び交流:安井 5. コミュニティ・スクールの成果と課題(2) 第9回 コミュニティ・スクールの財網紹介:横山利幸先生(授業協力者) 第10回 事例を踏まえた成果と課題の交流:安井 6. 家庭との連携の現状と課題 第11回 家庭との連携・保護者対応の実践事例の紹介:喜多山 第12回 事例を踏まえた成果と課題の交流:喜多山 7. 院生による発表と交流 第13回 院生のこれまでの勤務校での実践の紹介(1) 第14回 院生のこれまでの勤務校での実践の紹介(2) 8. 総括 第15回 まとめと今後の課題:藤森・喜多山・沢田・安井			
成績評価	授業への参加度・貢献			
教職チェック リスト	教育への使命感や責任原		-ションを図る。 を通して問題をとらえ、解決の糸口を	探るよう努める。

テキスト	授業時に適宜指示する。
参考文献	・宮前耕史・平岡俊一・安井智恵・添田祥史編著『持続可能な地域づくりと学校―地域創造型教師のために―』ぎょうせい、平成29年 ・中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」平成27年12月21日 ・この他、授業時に適宜紹介する。
関連する授業 科目	
オフィス・アワー	授業終了後、各キャンパスで設定する。
備考(履修上 の注意等)	主担当:安井(釧)、副担当:喜多山(札)、藤森(旭)、沢田(函) 遠隔授業のため、院生同士で積極的に意見交換する姿勢が望まれる。
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71016	学校組織マネジメント事	·例研究 I		2.0
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	
2020年度 前 期	実習		修学支援G 札幌、姫野 完治	
科目ナンバリ ング				
科目区分				
授業概要	る資質や能力を育成する	ことをねらいとする. iの明確化とディスカッ	り,教育現場における課題を的確に捉え,主作教育現場における課題についての情報収集とさいまる通した検討,教育課題に関係する情報	ディスカッシ
対応するディ プロマ・ポリ シー				
到達目標		りながら,追究する課	ことができる。 !題を的確にとらえることができる。 ,, 解決への方向性を構想することができる。	
授業計画	第1回: オリエンテーション (教育現場の現状と課題) 第2回: 教育課題の発見(1)情報の収集と整理 第3回: 教育課題の発見(2)教育現場の課題についての議論 第4回: 教育課題の発見(3)実習での学びを踏まえた課題設定に関する議論 第5回: 教育課題の発見(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第6回: 教育課題の発見(5)教育課題に関する先行研究の精査 第7回: 教育課題の発見(6)先行研究を踏まえた追究課題の焦点化 第8回: 課題追究の方法(1)課題解決のための課題追究の方法の探索 第9回: 課題追究の方法(2)課題追究の方法として参考となる先行研究の精査 第10回:課題追究の方法(3)実習での学びを踏まえた課題追究の方法に関する議論 第11回:課題追究の方法(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第12回:課題追究の方法(5)課題解決の見通しの検討 第13回:課題追究の方法(6)課題解決に向けた追究方法の焦点化 第14回:教育課題の整理と発表(1)教育課題と追究の方法についての発表と議論 第15回:教育課題の整理と発表(2)議論を通した修正案の提示			
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		シャパートにより,評価を行う。 シャパート(40%)	
教職チェック リスト				
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また,各受講者	が必要とする資料を準備し,配布する。	
参考文献	追究課題に応じて指定す	る。		
関連する授業 科目				
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	回に紹介する。		
備考(履修上 の注意等)				
教育実習やイ ンターンシッ プ等				
実務経験				

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71017	学校組織マネジメント事例研究 Ⅱ			2.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員		
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌		
科目ナンバリ ング					
科目区分					
授業概要	る資質や能力を育成する	ことをねらいとする。	り,教育現場における課題を的確に捉え, 実習の振り返りによる教育課題の理解の深信 研究を援用した課題解決のアイデアの創出	化,他者とのデ	
対応するディ プロマ・ポリ シー					
到達目標	②実習を振り返り,他者	いて,実習科目を通し さとの議論を通して,自	って,実態を把握することができる。 引己の探究を深めることができる。 Rに向けたアイデアを創出できる。		
授業計画	第1回: オリエンテーション (追究する教育課題の確認) 第2回: 教育課題の追究 (1) 情報の収集と整理 第3回: 教育課題の追究 (2) 実習での学びを踏まえた議論 第4回: 教育課題の追究 (3) 他コースの教員・学生を交えた議論 第5回: 教育課題の追究 (4) 教育課題の解決に向けた見通し確認と追究方法の修正 第6回: 教育課題の追究 (5) 情報の収集と整理 第7回: 教育課題の追究 (6) 実習での学びを踏まえた議論 第8回: 教育課題の追究 (7) 他コースの教員・学生を交えた議論 第9回: 教育課題の追究 (8) 教育課題の追究プロセスのまとめと振り返り 第10回: 解決方法の構想 (1) 教育課題の解決に向けたアイデアの創出 第11回: 解決方法の構想 (2) 教育課題の解決のための理論研究の検討 第12回: 解決方法の構想 (3) 実習での学びを踏まえた議論 (理論の援用可能性) 第13回: 解決方法の構想 (4) 他コースの教員・学生を交えた議論 第14回: 解決方法の構想 (5) 理論研究を踏まえた議論 第14回: 解決方法の構想 (5) 理論研究を踏まえた解決方法の焦点化				
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		ミレポートにより,評価を行う。 ミレポート(40%)		
教職チェック リスト					
テキスト	必要な資料は,適宜配布	iする。また,各受 <mark>講</mark> 者	が必要とする資料を準備し, 配布する。		
参考文献	追究課題に応じて指定す	- る。			
関連する授業 科目					
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初回に紹介する。				
備考(履修上 の注意等)					
教育実習やイ ンターンシッ プ等					
実務経験					

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71018	学校組織マネジメント事例研究Ⅲ			2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	I			
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		修学支援G 札幌、姫野 完治				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成界 ※実習科目と連携しなな	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。					
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	・実習を通した検証を行	示い, 解決に向けた見通	7イデアを振り返り,改善することができ 近しについて議論することができる。 5,他者に発信することができる。	きる。			
授業計画	第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回:追究の成果のまとめ(5)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発表に向けた準備 第14回:課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論 第15回:課題追究の成果のプレゼンと議論(2)議論を踏まえた修正と最終成果の発表						
成績評価			プレゼン及び期末レポートにより,評価 [。] アゼン(30%),期末レポート(30%)	を行う。			
教職チェック リスト							
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	iする。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 配布する。	•			
参考文献	追究課題に応じて指定す	る。					
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初]回に紹介する。					
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やインターンシップ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71019	学校組織マネジメント事	· 例研究Ⅳ		2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員				
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成果 ※実習科目と連携しなか	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。					
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	・実習を通した検証を行	い,解決に向けた見違	マイデアを振り返り,改善することができる。 通しについて議論することができる。 b,他者に発信することができる。				
	第1回: オリエンテーション (教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回: 教育課題の追究と検証(1) 実習を通した検証の準備 第3回: 教育課題の追究と検証(2) 実習を通した検証結果の考察と議論 第4回: 教育課題の追究と検証(3) 他コースの教員・学生を交えた議論 第5回: 教育課題の追究と検証(4) 研究の改善点に関する議論 第6回: 教育課題の追究と検証(5) 実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回: 教育課題の追究と検証(6) 研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回: 教育課題の追究の成果(1) 検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回: 教育課題の追究の成果(2) 研究成果に対するエビデンスの検討 第10回: 追究の成果のまとめ(3) 他コースの教員・学生を交えた議論 第11回: 追究の成果のまとめ(4) 課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回: 追究の成果のまとめ(5) 課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回: 追究の成果のまとめ(6) 課題追究の成果の発表に向けた準備 第14回: 課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論 第15回: 課題追究の成果のプレゼンと議論(2) 議論を踏まえた修正と最終成果の発表						
150 統一三半4曲		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	プレゼン及び期末レポートにより,評価を行う レゼン(30%),期末レポート(30%)	0			
教職チェック リスト							
	·		が必要とする資料を準備し, 配布する。				
参考文献	追究課題に応じて指定す	⁻ る。					
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初回に紹介する。						
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71020	教師に求められるリー 今日的課題	ダーシップと同僚性の		2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	
2020年度 後 期	水曜6限 水曜7限			
科目ナンバリ ング				
科目区分				
授業概要	「社会に開かれた教育課程」の実現が求められている今、組織的・機動的な学校運営及び教師の力量向上のための学校経営の在り方が喫緊の課題となっている。このようなときにあって、学校組織を構成する"教師に求められるリーダーシップと同僚性"について学び、スクールリーダーとしての基本的な素養を身につけるための授業である。			
対応するディ プロマ・ポリ シー	ることのできる、高度 2. 学校現場における	専門職業人としての知識 教育活動(授業実践、学	体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、そ 、研究・実践力。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
到達目標	2) リーダーシップと「 3) 実際のスクールリー 織 的・機動的に推進する	司僚性の現れを、具体的 ーダー(外部講師)等か る有効なリーダーシップ 重要性に鑑み、学校組織	僚性について考えることができる。 な実践場面を通して理解することができる。 らの実践提言を受け、その検討を通して、学 のあり方を考えることができる。 を、リーダーシップと同僚性の視点から考え	
授業計画	全体を講義、調査、協議、発表を組み合わせた遠隔授業とする。また、外部講師からの講義や勤務校での観察・調査等を通してリーダーシップと同僚性の実際と課題を明らかにし、実践的・理論的な理解を深める。 第1回:◆授業のガイダンス ◆校長・教頭・主幹教諭の具体的な実践の取り組みを通して、求められるリーダーシップを整理していく。 第2回:学校におけるリーダーシップとマネジメント 第3回:学校の活性化にとっての有効なリーダーシップのあり方 第4回:学校組織における同僚性・協働性の意味と高め方について① 第5回:実践からのリーダーシップの発揮と同僚性向上の成果と課題① 第6回:実践からのリーダーシップの発揮と同僚性向上の成果と課題② 第7回:学校組織における同僚性・協働性の意味と高め方について② 第8回:講話とプレゼンによるまとめ			
成績評価			: 、振り返りシート、発表、レポート等によっ :づき、主担当者が成績の評価を行う。	て総合的に記
教職チェック リスト				
テキスト	なし			
参考文献	・講座 現代学校教育の高度化7「スクールリーダーシップ」(2010) ・次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり 1「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり(20 17) ・中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 総則編 ・チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)中央教育審議会(2015) ・「社会に開かれた教育課程」を実現する教育環境(2018) ・サーバンドリーダーシップ入門(2017)			
関連する授業 科目 オフィス・ア				
ワー 備考(履修上 の注意等)	担当教員 松橋 淳(右 竹林 亨(道			

教育実習やイ	
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71021	授業研究の理論と実	際		2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	
2020年度 前 期	水曜6限 水曜7限	講義・討論・演習0 合型である	D混 前田 輪音	
科目ナンバリ ング				
科目区分				
授業概要	授業実践を教材づく 容・方法を示してい		の視点から、理論と実践を往還る	させながら多角的に研究する
対応するディ プロマ・ポリ シー				
到達目標	捉え表現する力を養し	い・組織的な授業研究の	の授業実践において子どもに働き の在り方を構想する力を養う(3 養う(主にストレートマスター)	主に現職院生)、子どもの学
授業計画	本講の () () () () () () () () () (り方について、整理・3 (水上) 授業実践の (水上) 投業実践の (水上の行った2つ けができる。 (阿部 学級集団形の (阿部 習法によりできる。 (阿部 習法によりではなる (一学 習力 一校内研修とを (大力であり、一様内の研修とを 校内研修とを 教師のわらはでいるで 教師のわられてでで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきがいたで 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、教師のおきが、この 、と、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	交流し、課題を見出す意味づけの授業実践を紹介し、その授業 最後に、研究者がその授業 成と教育方法(指導方法)選択の 組織の人間関係構築の実際。(中 ででである。 でであるででは、できないである。 を対象化と伝承 であために できるために できるか 業研究の計画	を の相関について 中学校の事例) 「。(中学校の事例) - - ・
成績評価 			義に基づき成績を評価する。	
教職チェック リスト				
テキスト		必要に応じてポートファ	ォリオにアップする。	
参考文献	講義中に適宜紹介する	る。		
関連する授業 科目				
オフィス・ア ワー	現状では対面での質問	問・相談には乗れない。	ので、メールで各担当教員に予約	約してください。
備考(履修上 の注意等)	主担当 前田輪音(水上丈実(旭川)、		部二郎(函館)、姫野完治(札1	晃)

ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位
71022	教職キャリア形成・研修	デザイン事例研究 I		2.0
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	
2020年度前期	実習	JXX/IVIN	修学支援G 札幌、姫野 完治	
科目ナンバリ ング			,	
科目区分				
授業概要	る資質や能力を育成する	ことをねらいとする. iの明確化とディスカッ	5り,教育現場における課題を的確に捉え,主係教育現場における課題についての情報収集ときいションを通した検討,教育課題に関係する情報	ディスカッシ
対応するディ プロマ・ポリ シー				
到達目標		りながら,追究する調	ることができる。 果題を的確にとらえることができる。 ル,解決への方向性を構想することができる。	
授業計画	第1回: オリエンテーション (教育現場の現状と課題) 第2回: 教育課題の発見(1)情報の収集と整理 第3回: 教育課題の発見(2)教育現場の課題についての議論 第4回: 教育課題の発見(3)実習での学びを踏まえた課題設定に関する議論 第5回: 教育課題の発見(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第6回: 教育課題の発見(5)教育課題に関する先行研究の精査 第7回: 教育課題の発見(6)先行研究を踏まえた追究課題の焦点化 第8回: 課題追究の方法(1)課題解決のための課題追究の方法の探索 第9回: 課題追究の方法(2)課題追究の方法として参考となる先行研究の精査 第10回: 課題追究の方法(3)実習での学びを踏まえた課題追究の方法に関する議論 第11回: 課題追究の方法(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第12回: 課題追究の方法(5)課題解決の見通しの検討 第13回: 課題追究の方法(6)課題解決に向けた追究方法の焦点化 第14回: 教育課題の整理と発表(1)教育課題と追究の方法についての発表と議論 第15回: 教育課題の整理と発表(2)議論を通した修正案の提示			
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		ミレポートにより,評価を行う。 ミレポート(40%)	
教職チェック リスト				
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 配布する。	
参考文献	追究課題に応じて指定す	る。		
関連する授業 科目				
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	回に紹介する。		
備考(履修上 の注意等)				
教育実習やイ ンターンシッ プ等				
実務経験				

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71023	教職キャリア形成・研修	『デザイン事例研究 Ⅱ		2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	1				
2020年度後期	実習		修学支援G 札幌、姫野 完治					
科目ナンバリ ング								
科目区分								
授業概要	る資質や能力を育成する	k授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。実習の振り返りによる教育課題の理解の深化、他者とのディスカッションを通した追究方法の検討、理論研究を援用した課題解決のアイデアの創出等を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	①追究する教育課題につ ②実習を振り返り,他者	次の到達目標を設定する。 ①追究する教育課題について,実習科目を通して,実態を把握することができる。 ②実習を振り返り,他者との議論を通して,自己の探究を深めることができる。 ③教育課題に関する理論と関連させ,課題解決に向けたアイデアを創出できる。						
授業計画	第2回:教育課題の追究 第3回:教育課題の追究 第4回:教育課題の追究 第5回:教育課題の追究 第6回:教育課題の追究 第7回:教育課題の追究 第8回:教育課題の追究 第9回:教育課題の追究 第10回:教育課題の追究 第10回:解決方法の構 第11回:解決方法の構 第14回:解決方法の構 第14回:解決方法の構	第1回: オリエンテーション (追究する教育課題の確認) 第2回: 教育課題の追究(1)情報の収集と整理 第3回: 教育課題の追究(2)実習での学びを踏まえた議論 第4回: 教育課題の追究(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回: 教育課題の追究(4)教育課題の解決に向けた見通し確認と追究方法の修正 第6回: 教育課題の追究(5)情報の収集と整理 第7回: 教育課題の追究(6)実習での学びを踏まえた議論 第8回: 教育課題の追究(7)他コースの教員・学生を交えた議論 第9回: 教育課題の追究(8)教育課題の追究プロセスのまとめと振り返り 第10回:解決方法の構想(1)教育課題の解決に向けたアイデアの創出 第11回:解決方法の構想(2)教育課題の解決のための理論研究の検討 第12回:解決方法の構想(3)実習での学びを踏まえた議論(理論の援用可能性) 第13回:解決方法の構想(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第14回:解決方法の構想(5)理論研究を踏まえた議論(理論の援用可能性) 第13回:解決方法の構想(5)理論研究を踏まえた議論(理論の援用可能性)						
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		シャパートにより,評価を行う。 シャパート(40%)					
教職チェック リスト								
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し,配布する。					
参考文献	追究課題に応じて指定す	る。						
関連する授業 科目								
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初]回に紹介する。						
備考(履修上 の注意等)								
教育実習やインターンシップ等								
実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71024	教職キャリア形成・研修	デザイン事例研究Ⅲ		2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		修学支援G 札幌、姫野 完治					
科目ナンバリ ング								
科目区分								
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成果 ※実習科目と連携しなが	は授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学 E・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	・実習を通した検証を行	・追究する教育課題について,解決に向けたアイデアを振り返り,改善することができる。 ・実習を通した検証を行い,解決に向けた見通しについて議論することができる。 ・教育課題の解決に関する追究の成果をまとめ,他者に発信することができる。						
授業計画	第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第6回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回:追究の成果のまとめ(5)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発表に向けた準備 第14回:課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論							
トレ 発育 三半4曲		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	プレゼン及び期末レポートにより,評価を行う。 アゼン(30%),期末レポート(30%)					
教職チェック								
リスト	必要な姿料は 適合配布	オス キケ タ母選ぎ	************************************					
	必要な資料は, 週目配布 追究課題に応じて指定す		1/1/心女にゞる貝件で牛脯し,ബ叩りる。					
関連する授業	とうログを10/10/00 01日だり	▽ ∘						
科目								
ワー	担当教員により、授業初回に紹介する。							
備考(履修上 の注意等) 教育実習やイ								
ンターンシッ プ等 実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名	単位					
71025	教職キャリア形成・研修デザイン事例研究Ⅳ			2.0					
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	•					
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌						
科目ナンバリ <u>ング</u>									
科目区分									
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成果 ※実習科目と連携しなが	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。							
対応するディ プロマ・ポリ シー									
到達目標	・実習を通した検証を行	・追究する教育課題について,解決に向けたアイデアを振り返り,改善することができる。 ・実習を通した検証を行い,解決に向けた見通しについて議論することができる。 ・教育課題の解決に関する追究の成果をまとめ,他者に発信することができる。							
授業計画	第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回:追究の成果のまとめ(5)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発表に向けた準備 第14回:課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論								
成績評価		·	プレゼン及び期末レポートにより, レゼン(30%),期末レポート(30						
教職チェック リスト									
テキスト	必要な資料は,適宜配布	iする。また, 各受講	者が必要とする資料を準備し, 配布	する。					
参考文献	追究課題に応じて指定す	-る。 -							
関連する授業 科目									
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初]回に紹介する。 							
備考(履修上 の注意等)									
教育実習やイ ンターンシッ プ等									
実務経験									

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71026	学級の主体性を育む教育		7 3 3 1 1 2 1	2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	2.0			
2020年度後	唯口・吋阪	拉耒 形思	担当教具				
期	木曜6限 木曜7限	講義・演習	藤森 宏明				
科目ナンバリ ング							
科目区分	選択科目 「共通科目」を土台 と	こして, より専門的な知	識・技能を学ぶ科目				
授業概要	の主体性を培うためには ②学級における組織がも や行事等の諸活動による	本授業は、望ましい学級集団の形成をめざすため教師に求められる資質・能力について学んでいく。学級の主体性を培うためにはさまざまな方法があるが、本授業では①学級担任としての学級経営の「かまえ」②学級における組織がもつ力と構成員の志向性との関連性③学級内の世論形成とルールとの関連等④授業や行事等の諸活動による学級経営の在り方などをもとに、受講者の学級経営における課題発見・課題解決の力量を高めていく。なお、本授業は、講義と院生による対話的な検討による交流・発表を中心に進めていく。					
	1 学校現場における諸課題について、学校全体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解決に当たることのできる、高度専門職業人としての知識、研究・実践力。						
到達目標	1 a学級担任に求められる資質・能力とは何かを理解できるようになる(ストレート)。 b学級担任に求められる資質・能力を理解するとともに自己課題を実践の中から発見できるようになる(現職) 2意見交流を通し多様な視点から望ましい学級集団のあり方について考察できるようになる(共通)。 3 a組織・経営に関するいくつかの理論と具体的実践を結びつけて考察できるようになる(ストレート)。 b組織・経営に関するいくつかの理論と具体的実践を結びつけ、これまでの実践を省察したり今後の実践についての改善策を提案したりできるようになる(現職)。						
授業計画	○第1週 第1回講座全体のガイダンス。本授業のテーマの意義について 第2回「学級の主体性を育む」ということは何か ○第2週 第3回「望ましい集団」としての組織力構築の重要性と課題 第4回 具体的な事例(手立て)をもとに意見交流。 ○第3週 第5・6回学級内での世論形成.モラルやルール作り等に着目した、学級経営における臨床的課題について ○第4週 第7回教師の教育観からみた学級経営における人間関係の課題 第8回具体的な事例をもとに組織論的な側面から意見交流 ○第5週 第9・10回事例発表1 (学生による発表1)(個を生かす工夫、学級活動のツール、行事を活用した学級づくり、学校事情をいかした実践、学習集団と社会性の両立,授業による学級づくりなど) ○第6週 第11・12回事例発表2 (学生による発表2) ○第7週 第13・14回 事例発表3 (学生による発表3) ○第8週 第15回 総括						
成績評価		加態度.発言内容,レポー	ト等から総合的に評価をする。				
教職チェック リスト	学習指導力 授業を行う学級が、学習集団及び生活集団としてどのような実態や特質を持っているかを把握する。・ 保育を行うくみが、生活集団としてどのような実態や特質を持っているか把握する。 子ども(幼児・児童・生徒)の理解 学級担任として行う学級の事務にはどんなものがあるかを知る。 教育への使命感や責任感、教育的愛情 教育実践から学んだ事や課題解決の方策などを学生同士で話し合い、自分たちなりに考えを深める。						
テキスト	特に指定しない						
参考文献	授業中に随時提示する。						
関連する授業	「生きる力」を育む学級・学年経営の実際と課題						

科目	
オフィス・ア ワー	授業終了後,それぞれのキャンパスで設定する。
加用老 ()復11念 「	受講者は,決して受身にならず.積極的・主体的に参加すること。また,授業中に出てきた課題等については, 実習や参考文献等を利用し.主体的に深めていくこと。なお.受講生の関心等に合わせて若干授業計画を変 更することもある。(主) 藤森(旭川) (副)小野寺(札幌)竹林(釧路)杉本(函館)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名 単位				
71027	発達・学習支援の方法	と実践的課題	The method of supporting development and I earning activities and its implementation of pr actical educational programs.				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員				
2020年度 前 期	木曜6限 木曜7限	実習、演習、講義	川俣智路				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	観する。 ・現在の子ども達の発達で、心理学的調査及び面接である。 【授業の方法等】	・人の発達と学習の心理学的な特徴と発達課題を知り、それぞれの時期における支援のあり方について概観する。 ・現在の子ども達の発達上の特徴を明らかにし支援の実際的方策を考える。 ・心理学的調査及び面接法の実際について体験的に学ぶことで子ども理解、自己理解の方法を身につける。 【授業の方法等】					
	る。	ひで戻りて1]フが、神事	らと共に演習、ワークショップ形式を内容に応し	ノし天心り			
対応するディ プロマ・ポリ シー		•	♡地域を俯瞰して広い視野から分析し, その解》 研究・実践力	央に当たるこ			
到達目標	・新たな発達への視点を ・ナラティヴ,即興性, 習心理学に関連する新	・古典的な発達段階理論を踏まえて、ライフスパンを見通す新たな発達の視点を理解できる ・新たな発達への視点を活かして、実際の児童・生徒を多様な観点から理解できる ・ナラティヴ、即興性、パフォーマンス心理学、学びのユニバーサルデザイン(UDL)など発達心理学・学 習心理学に関連する新たな概念を理解できる ・心理・発達アセスメント、心理統計の概要を理解し、適切に実践記録、アセスメントを理解できる					
	 <オリエンテーション・発達する発達> ○1. この授業の狙いと到達目標の提示 ○2. 発達とは、学習を支援するとは何か? ○3. これまでの発達と新しい「発達」 ○4. これから育成すべき資質・能力と 新しい「発達」~即興性とパフォーマンス~ 事前学習:課題動画を見て、自分の見解をまとめてくる事後学習:授業実践や行事・部活,生徒指導・教育相談の場での即興性が問われる場面をまとめる 第2回 「発達」を測る> ○5. 数字から見る人の心理・発達 ○6. なぜ統計的な観点が役に立つのか ○7. いつ統計的な観点が役に立たないのか 事前学習:学校で実施されたデータを元に、その解釈をまとめてくる 						
	第3回 <「発達・学習」を見守る・語る> 08. すれ違う語り 09. ナラティヴとは何か 10. ナラティヴ・ベイスト・プラクティス 事前学習:ナラティヴに関する事前に提示された文献を精読してくる 事後学習:自らの実践についてナラティヴの観点から捉え直して振り返る 第4回 <「学べない」子どもたち> 11. 「学べない」子どもたち:カリキュラムの障害						

事前学習: UDLに関する説明がされた動画を視聴してくる

事後学習:自らの授業実践のどこにカリキュラムの障害があり、どのようにしてそれを除去できるかま

とめる

第5回

くそれでも「学び」をうながす>

- 13. 「学び」を促すためには何が必要か
- 14. 「発達・学習」のアセスメントの重要性
- 15. 見る→測る→活動する→見守る

事前学習: 事例に登場する児童の見立てをし、それをまとめて持参する

事後学習: 生徒指導に関する事例を読んで、アセスメントの方法をふり返る

第6回

<発達支援の新たな取り組み>

- 16. コミュニケーション、学習を支えるReading Comprehension
- 17. MLAの取り組み(日本版包括的生徒指導、SEL、協同学習、PBIS、ピアサポート)

事前学習: Reading Comprehension、MLAについて資料を読む

事後学習:自治体などのMLAの取り組み例について学び、理解を深める

第7回

<新しい「発達」心理学を構築する>

- 17. 新たな「発達」を拓く
- 18. リーフレット「新しい『発達』(仮題)」の発表

事前学習: リーフレットの内容を考えてくる

事後学習: リーフレットの内容を精査し完成させる

第8回

成績評価

リスト

<リーフレット「新しい『発達』 (仮題)」の作成と紹介文の作成>

20. リーフレット「新しい『発達』」の完成と提出

事前学習:リーフレットを完成させる

事後学習:他の班が作成したリーフレットを熟読する

次の4点から評価を行う。

- ・事前課題の実施内容と理解度(15%)
- ・授業中のディスカッションへの貢献度(15%)
- ・授業終了時の自己評価ならびに教員評価(15%)
- ・クォーター終了時に課されるレポート課題の自己評価並びに教員評価(自己評価15%,教員評価40%)

それぞれの詳細については初回時に提示するルーブリックを参照。

【H29以降学生】学習指導力

自己の行った保育・授業をふりかえり、どのような成果と課題があったのかを考察する。

・どのような働きかけをした時に,子どもからの反応が良かったのか。子どもがどこでつまずいていたの

教職チェックか。次回に何を大切に保育・授業を行うのか。

【H29以降学生】子ども(幼児・児童・生徒)の理解

自己と他者がともに成長しあえるような対人関係やコミュニケーションの重要性について理解する。

【H29以降学生】教育への使命感や責任感、教育的愛情

教育実践から学んだことなどから課題解決の方策など、学生同士で話し合い、考えを深めている。

テキスト 特定の教科書を使用することはしません。

参考文献 参考文献は以下の通りです。教科書ではないので、授業のために必ず購入する必要はありません。

児童生徒理解のための教育心理学(ナカニシヤ出版)

発達心理学の基本的な概念を押さえる際に助けとなる文献です。

新しいスクール・カウンセリング 学校におけるナラティヴ・アプローチ(金剛出版) 学校とナラティヴ・アプローチの有効性を関連付けて提示してくる文献です。

社会と文化の心理学 ヴィゴツキーに学ぶ(世界思想社)

生徒指導,学習支援,学校外活動,体験学習などを新たな視点から捉え直した良書です。

遊ぶヴィゴツキー:生成の心理学へ(新曜社)

パフォーマンス心理学,新たな「発達」を提示してくれる文献です。

I	1
	UDL学びのユニバーサルデザイン クラス全員の学びを変える授業アプローチ
	学びのユニバーサルデザインについて解説してある、唯一日本語で読める書籍です
	論理的読み書きの理論と実践 知識基盤社会を生きる力の育成に向けて Reading Comprehension関連で日本語で読める文献の1つです
	マルチレベルアプローチ:だれもが行きたくなる学校づくり:日本版包括的生徒指導の理論と実践 MLAに関わる文献です
	教職大学院のどの科目とも関連がありますが、とくに以下の科目と関連が深いです。
関連する授業 科目	・児童生徒理解とその指導方法・生徒指導の意義と今日的課題・生徒指導の実際・現代社会と生徒指導・非行臨床心理学
	主担当の川俣のオフィスアワーは、授業期間中は木曜日15時〜17時30分とします。直接研究室に訪問でも、またはスカイプやFacetimeなどによるオンラインでのやりとりも可能です。オンラインの際には、事前にメールでアポイントをとっていただけると幸いです。
	オフィスアワー時間以外でコンタクトをとりたい場合,授業期間中以外での問い合わせに関しては,直接 教員にお尋ねください。
オフィス・ア ワー	連絡先,アカウント等の情報は,初回の授業でお伝えします。必要があれば,主担当教員までメールで問い合わせるか,研究室に電話してお尋ねください。
	副担当教員のオフィスアワーは,各教員に直接お問い合わせください。
	(2020年3月31日現在、新型コロナウイルスの影響により研究室への訪問は原則お断りしています。状況によって変わりますが、オフィスアワー活用の際にはまずは担当教員に問い合わせていただくようお願いします。)
	この授業の担当者は、各キャンパス以下の通りです。
	主担当:川俣智路(札幌校) 副担当:稲葉浩一(旭川校),室山俊美(釧路校),小田将之(函館校)
	資料の探し方、ゼミでのディスカッション、議論への参加の方法,等について疑問や不安がある場合には 適宜サポートしますので、その都度主担当教員までお尋ね下さい。
備考(履修上 の注意等)	この授業では発達や学習の新たな理論や事例について体験的にワークなどを通して学びます。その方法などについては授業中に主担当教員から教示しますので、事前課題を実施してくる以外は特に予備知識は必要ありません。
	様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業までに主担当教員に相談して下さい。
	主担当教員についての詳細なプロフィール、授業の方針、人柄などを知りたい場合には教員情報のウェブ サイトをご覧下さい。またはオフィスアワーなどを利用して,主担当教員に直接お尋ね下さい。
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
フサ 実務経験	
<u> </u>	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位					
71028	子ども理解・学級経営事			2.0					
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員						
2020年度前期	実習	1文未///恐	学支援G 札幌、姫野 完治						
科目ナンバリ ング									
科目区分									
授業概要	る資質や能力を育成する ョン,追究する教育課題	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする、教育現場における課題についての情報収集とディスカッション、追究する教育課題の明確化とディスカッションを通した検討、教育課題に関係する情報収集と解決こ向けた課題追究の方法の検討等を行う。							
対応するディ プロマ・ポリ シー									
到達目標		りながら,追究する課	らことができる。 思題を的確にとらえることができる。 ,,解決への方向性を構想することができる。						
授業計画	第2回:教育課題の発見 第3回:教育課題の発見 第4回:教育課題の発見 第5回:教育課題の発見 第6回:教育課題の発見 第7回:教育課題の発見 第9回:課題追究の方法 第10回:課題追究の方法 第11回:課題追究の方 第13回:課題追究の方 第13回:課題追究の方 第14回:教育課題の整	第1回: オリエンテーション(教育現場の現状と課題) 第2回: 教育課題の発見(1)情報の収集と整理 第3回: 教育課題の発見(2)教育現場の課題についての議論 第4回: 教育課題の発見(3)実習での学びを踏まえた課題設定に関する議論 第5回: 教育課題の発見(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第6回: 教育課題の発見(5)教育課題に関する先行研究の精査 第7回: 教育課題の発見(6)先行研究を踏まえた追究課題の焦点化 第8回:課題追究の方法(1)課題解決のための課題追究の方法の探索 第9回:課題追究の方法(2)課題追究の方法として参考となる先行研究の精査 第10回:課題追究の方法(3)実習での学びを踏まえた課題追究の方法に関する議論 第11回:課題追究の方法(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第12回:課題追究の方法(5)課題解決の見通しの検討 第13回:課題追究の方法(6)課題解決に向けた追究方法の焦点化 第14回:教育課題の整理と発表(1)教育課題と追究の方法についての発表と議論 第15回:教育課題の整理と発表(2)議論を通した修正案の提示							
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		ミレポートにより,評価を行う。 ミレポート(40%)						
教職チェック リスト									
テキスト	必要な資料は,適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 配布する。						
参考文献	追究課題に応じて指定す	-る。							
関連する授業 科目									
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	 回に紹介する。 							
備考(履修上 の注意等)									
教育実習やイ ンターンシッ プ等									
実務経験									

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71029	子ども理解・学級経営事	例研究Ⅱ		2.0				
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌					
科目ナンバリ ング								
科目区分								
授業概要	る資質や能力を育成する	を授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。実習の振り返りによる教育課題の理解の深化、他者とのディスカッションを通した追究方法の検討、理論研究を援用した課題解決のアイデアの創出等を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	②実習を振り返り,他者	いて,実習科目を通し iとの議論を通して,自	,て,実態を把握することができる。 引己の探究を深めることができる。 Rに向けたアイデアを創出できる。					
授業計画	第2回:教育課題の追究 第3回:教育課題の追究 第4回:教育課題の追究 第5回:教育課題の追究 第6回:教育課題の追究 第7回:教育課題の追究 第8回:教育課題の追究 第9回:教育課題の追究 第10回:解決方法の構 第11回:解決方法の構 第13回:解決方法の構 第14回:解決方法の構	第1回:オリエンテーション(追究する教育課題の確認) 第2回:教育課題の追究(1)情報の収集と整理 第3回:教育課題の追究(2)実習での学びを踏まえた議論 第4回:教育課題の追究(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究(4)教育課題の解決に向けた見通し確認と追究方法の修正 第6回:教育課題の追究(5)情報の収集と整理 第7回:教育課題の追究(6)実習での学びを踏まえた議論 第8回:教育課題の追究(7)他コースの教員・学生を交えた議論 第9回:教育課題の追究(8)教育課題の追究プロセスのまとめと振り返り 第10回:解決方法の構想(1)教育課題の解決に向けたアイデアの創出 第11回:解決方法の構想(2)教育課題の解決のための理論研究の検討 第12回:解決方法の構想(3)実習での学びを踏まえた議論(理論の援用可能性) 第13回:解決方法の構想(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第14回:解決方法の構想(5)理論研究を踏まえた議論(理論の援用可能性)						
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		シャップ (40%) ドレポート (40%)					
教職チェック リスト								
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 配布する。					
参考文献	追究課題に応じて指定す	る。						
関連する授業 科目								
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	回に紹介する。						
備考(履修上 の注意等)								
教育実習やイ ンターンシッ プ等								
実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名		単位			
71030	子ども理解・学級経営事例研究Ⅲ				2.0			
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		修学支援G 札幌	、姫野 完治				
科目ナンバリ ング								
科目区分								
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成果 ※実習科目と連携しなか	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	・実習を通した検証を行	い, 解決に向けた見通	iしについて議論す					
授業計画	第2回:教育課題の追究 第3回:教育課題の追究 第4回:教育課題の追究 第5回:教育課題の追究 第6回:教育課題の追究 第7回:教育課題の追究 第9回:教育課題の追究 第10回:教育課題の追究 第11回:追究の成果の 第11回:追究の成果の 第13回:課題追究の成果の 第14回:課題追究の成 第15回:課題追究の成	・教育課題の解決に関する追究の成果をまとめ、他者に発信することができる。 第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発表に向けた準備 第14回:課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論						
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ			ポートにより,評価を行う 末レポート(30%)	ō.			
教職チェック リスト								
テキスト	必要な資料は、適宜配布		が必要とする資料	を準備し,配布する。				
参考文献	追究課題に応じて指定す	⁻ る。						
関連する授業 科目								
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	 回に紹介する。 						
備考 (履修上 の注意等)								
教育実習やイ ンターンシッ プ等								
実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名	単位					
71031	子ども理解・学級経営事例研究Ⅳ			2.0					
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員						
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌						
科目ナンバリ ング									
科目区分									
授業概要	る資質や能力を育成する ・教育課題に対する解決 ・実習を通した検証と, ・教育課題の追究の成果 ※実習科目と連携しなか	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。							
対応するディ プロマ・ポリ シー									
到達目標	・実習を通した検証を行	い,解決に向けた見違	マイデアを振り返り,改善することができる。 通しについて議論することができる。 b,他者に発信することができる。						
授業計画	第2回:教育課題の追究 第3回:教育課題の追究 第4回:教育課題の追究 第5回:教育課題の追究 第6回:教育課題の追究 第7回:教育課題の追究 第8回:教育課題の追究 第9回:教育課題の追究 第10回:追究の成果の 第11回:追究の成果の 第13回:追究の成果の 第13回:課題追究の成 第15回:課題追究の成	第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第11回:追究の成果のまとめ(5)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発表に向けた準備							
成績評価			プレゼン及び期末レポートにより,評価を行う レゼン(30%),期末レポート(30%)	•					
教職チェック リスト									
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	iする。また, 各受講者	音が必要とする資料を準備し, 配布する。						
参考文献	追究課題に応じて指定す	⁻ る。							
関連する授業 科目									
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初]回に紹介する。							
備考(履修上 の注意等)									
教育実習やインターンシップ等									
実務経験									

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71032	教材開発・教材研究のフ	5法と実践	Development of the Learning Materials	2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
2020年度 後 期	月曜6限 月曜7限	対面集中および双方向 遠隔授業	森健一郎					
科目ナンバリ ング								
科目区分	選択科目 「共通科目」を土台 c	選択科目 「共通科目」を土台として,より専門的な知識・技能を学ぶ科目						
授業概要	実際に学外に出て調査活動を行い、そこで取材した内容をもとに教材を作成する。集めた題材を、講義で得た視点などによって、再構成し、実際に子どもに提示できる教材を完成させる。その際、ICT活用の観点から、動画ファイルの挿入や写真データの圧縮なども取り入れることとする。 15時間のうち7時間分を学外での活動の時間とする。実施期間は、8月上旬から9月下旬の大学の夏休み中とする。その後、10月初旬から8コマ分の講義を行い、教材分析の視点等について理解を深める。本来であれば、先に講義をおこない、それを踏まえての学外活動とするべきであるが、院生の勤務状況等を考慮しこのような変則的な構成となっている。 ※なお、2020年度については、コロナウイルスへの対策のため、学外での活動をインターネット上での資料収集などで代替する予定である。							
対応するディ プロマ・ポリ シー		学校現場における教育活動(授業実践,学級・学校経営,生徒指導,教育相談)の改善・向上の取組を,組織の協働体制及び地域の教育力との連携を構築することで推進する力						
到達目標	学外の社会施設など題材 る。	才にして、教科横断的な	視点を備えたオリジナルな教材を作成するこ	とを目標と				
授業計画	学外での教材開発(各キャンパス)8月初旬から9下旬にかけて、各キャンパスで実施。札幌は前田先生、旭川は藤川先生、函館は阿部先生、釧路は森が担当。 例年は、社会施設などを活用した教材開発のための取材をおこなうが、今年度はコロナウイルスの対応のため、インターネット上での資料収集が主な活動となる。※ここで7コマ分 10月5日(月)教材開発の視点(森) ・教材分析の視点について紹介し、これまでの各自の実践を整理する。 10月12日(月)阿部先生(函館)による講義 ・詳細は後日発表 10月19日(月)演習(各キャンパス) ・各グループ(または個人)での作業日。 ・札幌は野寺先生、旭川は藤川先生、函館は阿部先生、釧路は森が担当。 10月26日(月)開発した教材の発表と交流(森) ・各キャンパスからの発表 ※詳細は後日発表 ・最終課題の趣旨等の説明							
成績評価	講義・実習への取り組み	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	材の開発」の課題発表(5割)で評価します。					
教職チェック リスト		·						
テキスト	講義性質上、特別なテキ	ドストは使用せず、授業	に必要な資料を随時配布する。					
参考文献	自分の専門教科(またに	は校種)の「学習指導要	領解説」					
関連する授業 科目	M 1 第 1 クオーター「学びとカリキュラム」 M 1 第 2 クオーター「教科教育の実践と課題」 M 1 第 3 クオーター「指導と評価の実践的展開」 M 1 第 4 クオーター「『総合的な学習の時間』を創る」							
オフィス・ア ワー	火曜日 5 講目を基本とす	するが、随時実施可能。						
備考(履修上 の注意等)	■実務経験教員担当授業科目 主担当:森 担当:(札)前田、野寺、(旭)藤川、(函)阿部、(釧)森							
教育実習やイ ンターンシッ								

プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71033	授業づくりの実際			2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	1				
2020年度 前 期	月曜6限 月曜7限		藤川 聡					
科目ナンバリ ング			·					
科目区分								
授業概要	る。マイクロティーラ (マイクロレッスン) 析や院生同士の相互詞 とする	チングとは,受講す を小さなグルーフ 平価を通じて授業力	生徒の学びを切り拓く高度な授業力る院生が他の院生を生徒役に見立て、(マイクロクラス)の中で順番に行った。	こ,10分程度の短い模擬授業 示い,ビデオ録画による授業解 今年度はZOOMによる遠隔授業				
対応するディ プロマ・ポリ シー	る。マイクロティーラ (マイクロレッスン)	チングとは,受講す を小さなグルーフ	:徒の学びを切り拓く高度な授業力を 「る院生が他の院生を生徒役に見立て 「(マイクロクラス)の中で順番に行 」を高めようとするものである。	て, 10分程度の短い模擬授業				
到達目標	到達目標 <ストレートマスター> 1 授業に求められる企画力や展開力の基礎を身に付ける。 2 マイクロレッスンの分析を通じ,自ら課題を克服できる能力を身に付ける。 <現職教員> 1 授業における企画力や展開力の高度化を図る。 2 マイクロレッスンの分析を通じ,授業力の高度化を図るとともに,優れた授業実践を理論化・体系化できる能力を身に付ける。							
授業計画	第1週 第1回・第2回<全キャンパスZOOM授業> ○オリエンテーション(シラバス説明) ○マイクロティーチングとは(発祥,海外・国内での実践例,本授業での実施方法)							
	○学習指導案作成のボ次週からのマイクロー・マイクロティーチン第3週	イントについて(自 ルッスンの打合せ いグで実践する学習 キャンパス> (各キ	OOM授業 後半: 各キャンパスZ 身の指導案があれば持参する)。 (各キャンパスZOOM) !指導案の構想(単元計画・本時の! ・ヤンパスZOOM授業)					
	第4週 第 7 回・第 8 回 < 各= ○マイクロレッスン 2 ○相互評価・授業分析		·業>					
	第5週 第9回・第10回 <各キ ○マイクロレッスン3 ○相互評価・授業分析		業>					
	第6週 第11回・12回<各- ○マイクロレッスン 4 ○相互評価・授業分析		受業>					
	第7回 <双方向> 第1 3 回・1 4 回・第	5回<全キャンパス	スZOOM授業>					

	○各キャンパスから授業分析の報告 ○意見交流 ○最終レポート作成(第15回相当)
成績評価	1 学習指導案(3割) (1) 身につけさせるべき能力及び教育方略が明確に示されている。 (2) 生徒の学び切り拓く工夫された学習展開となっている。 (3) 生徒が身につけた能力をはかる適切なルーブリックが設定されている。 2 マイクロレッスンの自己分析レポート(5割) (1) マイクロレッスンの自己分析が客観的・論理的に記述されている。 (2) 自身の授業改善についての課題と展望や授業に対する使命感,教職への決意などが具体的に記述されている(おもにストレートマスター) (3) 授業実践の優れた部分を理論化・体系化して示している(おもに現職教員)。 2 発表内容・振り返りシート(2割) (1) 相互評価などの意見交流で,自身の考えを積極的に発信しようとしている。 (2) 振り返りシートで,その日の授業で身に付けた知見や今後の授業研究・授業実践に生かせることなどを見いだそうとしている。
教職チェック リスト	
テキスト	①学習指導要領解説 (自身の専門教科,もしくはマイクロティーチングで行う教科のものを準備すること。) ②評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料 (自身の専門教科,もしくはマイクロティーチングで行う教科のものを準備すること。) 上記の2冊は文部科学省のHPにPDFにてアップされていますので購入しなくても受講できますが,安価なので購入をお勧めします。
参考文献	
関連する授業 科目	
オフィス・ア ワー	随時
備考(履修上 の注意等)	
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
71034	カリキュラム・授業開発事例研究 I			2.0		
 開講期	曜日・時限		担当教員			
2020年度前期	実習	J文米/17/15/	修学支援G 札幌、姫野 完治			
科目ナンバリ ング						
科目区分						
授業概要	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。教育現場における課題についての情報収集とディスカッション、追究する教育課題の明確化とディスカッションを通した検討、教育課題に関係する情報収集と解決に向けた課題追究の方法の検討等を行う。					
対応するディ プロマ・ポリ シー						
到達目標		りながら,追究する課	ことができる。 題を的確にとらえることができる。 ,,解決への方向性を構想することができる。			
授業計画	第1回:オリエンテーション(教育現場の現状と課題) 第2回:教育課題の発見(1)情報の収集と整理 第3回:教育課題の発見(2)教育現場の課題についての議論 第4回:教育課題の発見(3)実習での学びを踏まえた課題設定に関する議論 第5回:教育課題の発見(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第6回:教育課題の発見(5)教育課題に関する先行研究の精査 第7回:教育課題の発見(6)先行研究を踏まえた追究課題の焦点化 第8回:課題追究の方法(1)課題解決のための課題追究の方法の探索 第9回:課題追究の方法(2)課題追究の方法として参考となる先行研究の精査 第10回:課題追究の方法(3)実習での学びを踏まえた課題追究の方法に関する議論 第11回:課題追究の方法(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第12回:課題追究の方法(5)課題解決の見通しの検討 第13回:課題追究の方法(6)課題解決に向けた追究方法の焦点化 第14回:教育課題の整理と発表(1)教育課題と追究の方法についての発表と議論 第15回:教育課題の整理と発表(2)議論を通した修正案の提示					
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		ミレポートにより,評価を行う。 ミレポート(40%)			
教職チェック リスト						
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 配布する。			
参考文献	追究課題に応じて指定す					
関連する授業 科目						
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初回に紹介する。					
備考(履修上 の注意等)						
教育実習やイ ンターンシッ プ等						
実務経験						

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71035	カリキュラム・授業開発事例研究 Ⅱ			2.0			
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	<u> </u>			
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。実習の振り返りによる教育課題の理解の深化、他者とのディスカッションを通した追究方法の検討、理論研究を援用した課題解決のアイデアの創出等を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	①追究する教育課題につ ②実習を振り返り,他者	次の到達目標を設定する。 ①追究する教育課題について,実習科目を通して,実態を把握することができる。 ②実習を振り返り,他者との議論を通して,自己の探究を深めることができる。 ③教育課題に関する理論と関連させ,課題解決に向けたアイデアを創出できる。					
授業計画	第1回:オリエンテーション(追究する教育課題の確認) 第2回:教育課題の追究(1)情報の収集と整理 第3回:教育課題の追究(2)実習での学びを踏まえた議論 第4回:教育課題の追究(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究(4)教育課題の解決に向けた見通し確認と追究方法の修正 第6回:教育課題の追究(5)情報の収集と整理 第7回:教育課題の追究(6)実習での学びを踏まえた議論 第8回:教育課題の追究(7)他コースの教員・学生を交えた議論 第9回:教育課題の追究(8)教育課題の追究プロセスのまとめと振り返り 第10回:解決方法の構想(1)教育課題の解決に向けたアイデアの創出 第11回:解決方法の構想(2)教育課題の解決のための理論研究の検討 第12回:解決方法の構想(3)実習での学びを踏まえた議論(理論の援用可能性) 第13回:解決方法の構想(4)他コースの教員・学生を交えた議論 第14回:解決方法の構想(5)理論研究を踏まえた議論(理論の援用可能性) 第15回:解決方法の構想(5)理論研究を踏まえた議論						
成績評価	授業におけるディスカッ 授業におけるディスカッ		ミレポートにより,評価を行う。 ミレポート(40%)	,			
教職チェック リスト							
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	する。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, 『	型布する。 			
参考文献	追究課題に応じて指定す	-る。					
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	回に紹介する。					
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71036	カリキュラム・授業開発事例研究Ⅲ			2.0			
 開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員				
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		修学支援G 札幌、姫野 完治				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	・実習を通した検証を行	い,解決に向けた見通	イデアを振り返り,改善することができる iしについて議論することができる。 o,他者に発信することができる。	5.			
授業計画	第2回:教育課題の追究 第3回:教育課題の追究 第4回:教育課題の追究 第5回:教育課題の追究 第6回:教育課題の追究 第7回:教育課題の追究 第9回:教育課題の追究 第10回:教育課題の追究 第11回:追究の成果の 第11回:追究の成果の 第13回:課題追究の成果の 第14回:課題追究の成 第15回:課題追究の成	と検証(1)実習を通 と検証(2)実習を通 と検証(3)他コース と検証(4)研究の改 と検証(5)実習を通 と検証(5)研究習を通 の成果(1)検証の成果(2)研究成果 の成果(2)研究成果 の成果(2)研究成果 まとめ(3)他盟題追究 まとめ(5)課題追究 まとめ(6)課題追究 は果のプレゼンと議論(に果のプレゼンと議論(した検証結果の考察と議論 の教員・学生を交えた議論 達点に関する議論 した再検証の結果の考察と議論 の解決に向けた検証結果のまとめ したデータの整理と主張の構成 したデータの整理と主張の構成 したデータの整理と主張の構成 の教員・学生を交えた議論 の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 の成果の発信方法に関する議論 の成果の発表に向けた準備 (1)発表と議論 (2)議論を踏まえた修正と最終成果の発表				
成績評価			プレゼン及び期末レポートにより,評価を行 ゼン(30%),期末レポート(30%)	う 。			
教職チェック リスト							
テキスト			が必要とする資料を準備し, 配布する。				
参考文献	追究課題に応じて指定す	-る。 					
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	担当教員により、授業初	回に紹介する。					
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71037	カリキュラム・授業開発事例研究Ⅳ			2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	1			
2020年度 後 期	実習		修学支援G 札幌				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	本授業では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。 ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通した検証と、ディスカッションを通した研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション ※実習科目と連携しながら具体的な教育課題について検討するとともに、必要に応じて、他のコースの学生・教員とも連携し、広い視点からの議論を行う。						
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	・実習を通した検証を行	い, 解決に向けた見通	イデアを振り返り, 改善する。 iしについて議論することができ o, 他者に発信することができ	きる。			
	第1回:オリエンテーション(教育課題の解決に向けたアイデアの確認) 第2回:教育課題の追究と検証(1)実習を通した検証の準備 第3回:教育課題の追究と検証(2)実習を通した検証結果の考察と議論 第4回:教育課題の追究と検証(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第5回:教育課題の追究と検証(4)研究の改善点に関する議論 第6回:教育課題の追究と検証(5)実習を通した再検証の結果の考察と議論 第7回:教育課題の追究と検証(6)研究課題の解決に向けた検証結果のまとめ 第8回:教育課題の追究の成果(1)検証を通したデータの整理と主張の構成 第9回:教育課題の追究の成果(2)研究成果に対するエビデンスの検討 第10回:追究の成果のまとめ(3)他コースの教員・学生を交えた議論 第11回:追究の成果のまとめ(4)課題追究の成果のまとめ方・実践研究論文の構成 第12回:追究の成果のまとめ(5)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第13回:追究の成果のまとめ(6)課題追究の成果の発信方法に関する議論 第14回:課題追究の成果のプレゼンと議論(1)発表と議論 第15回:課題追究の成果のプレゼンと議論(2)議論を踏まえた修正と最終成果の発表						
トレ 発音 三火が曲		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	プレゼン及び期末レポートによ プレン(30%),期末レポート	· ·			
教職チェック リスト							
テキスト	必要な資料は, 適宜配布	iする。また, 各受講者	が必要とする資料を準備し, [型布する。 			
参考文献	追究課題に応じて指定す	- る。					
関連する授業 科目							
ワー	, 担当教員により、授業初回に紹介する。						
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71039 生徒指導の実際			Actual student guidance	2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態		1			
2020年度 前 期	木曜6限 木曜7限	講義・演習・協議	三上 清和				
科目ナンバリ ング							
科目区分	選択科目 区分 「共通科目」を土台として,より専門的な知識・技能を学ぶ科目						
授業概要	近年、少子高齢化や情報化の急速な進展により、社会も様々に変化してきている。それに伴い、学校における児童生徒の態様も複雑化してきており、その対応も難しさを増している。そうした現状を踏まえ、実際に学校で起こっている生徒指導上の問題や課題の事例を取り上げ、背景や要因を探るとともに、検証しながら、具体的にどのような指導や対応を行うべきか、その実際について学ぶ。 実践例を様々な角度から検証するとともに、対応にあたって、家庭や地域、関係機関との連携の在り方や教師としての心構えと力量を向上させるための方途についても考え、意欲的に生徒指導に取り組むようになるための教師としての在り方について実践的に学ぶ。						
対応するディ プロマ・ポリ シー	学校現場における諸課題 とのできる、高度専門職		地域を俯瞰して広い視野から分析し、その解》 究・実践力。	夬に当たるこ			
到達目標	1 様々な生徒指導上の問題について、深い理解と対応の方途を知る。 2 生徒指導の問題の背景にあるものを知り、児童生徒理解の重要性について再確認する。 3 いろいろな問題に立ち向かうため、心構えや意欲的に取り組むための力量を養う。 4 生徒指導上の問題にかかわって、家庭や地域、関係機関等の連携の仕方や法的な根拠について知る。						
授業計画	①オリエン語 第3回・4回 「生徒指 ①具体的な 第5回・6回 「生徒指 ①具体的な 第7回・8回 「生徒指 ①具体的な 第9回・10回 「生徒指 第11回・12回 「生徒指 第13回・14回 「生徒指 第13回・14回 「生徒指	デーション ②生徒指導 導の実際 2 いじめに 指導の例 ②指導方法 3導の実際 3 不登校に 2指導の例 ②指導方法 3導の実際 4 今日的な 3等の実際 5 ある実践 3等の実際 5 ある実践 3等の実際 6 ある実践 3等の実際 7 ある実践 5等の実際 7 ある実践	の取組み方と演習について」を研究協議する。 算について ③事例研究の取組み方と実践事例 かかわる事例について」を研究協議する。 や指導体制の理解 ③他機関との連携 かかわる事例について」を研究協議する。 や指導体制の理解 ③他機関との連携 課題にかかわる事例について」を研究協議する。 や指導体制の理解 ③他機関との連携 課題にかかわる事例について」を研究協議する。 や指導体制の理解 ③他機関との連携 事例について」を研究協議する。 急事例について」を研究協議する。 急事例について」を研究協議する。				
成績評価	①各自の考えた課題の整理 ②レポート作成 ・出席点,話し合いへの参加態度,発言内容,レポート等による総合評価 ・各キャンパスの担当者間の協議に基づき,主担当者が成績の評価を行う						
教職チェック リスト	教育への使命感や責任息 教育実践から学んだ事		を学生同士で話し合い、自分たちなりに考える	を深める。			
テキスト	・文部科学省、北海道教 ・生徒指導提要	(育委員会等から出され	た資料				
参考文献	平成30年度児童生徒の問	問題行動・不登校等生徒	指導上の諸課題に関する調査結果について (令和元年10月17日文科省)				
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	木曜日5講目、研究室						
]							

備考(履修上 の注意等)	(主) 三上清和(函館校)、川俣智路(札幌校)、木下俊吾(旭川校)、 安川禎亮(釧路校)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	経験あり ■実務経験教員担当授業科目 (小・中学校勤務の経験のある教員の講話等を通じて、学校現場の多様な変化に応じた児童理解及び生徒指導について、事例を通じより実践的な学びを深める。)

科目番号	授業科目		英語科目名	単位		
			Roles and problems of special support educa			
71040	特別支援コーティネータ	ターの役割と課題 	ion coordinators	2.0		
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員			
2020年度 前 期	集中講義	講義、事例検討、討 論、ワークショップ	小野寺 基史			
科目ナンバリ ング						
科目区分						
授業概要	特別支援教育の推進に当たっては、校内体制の確立はもとより、特別支援教育コーディネーターの役割が 非常に重要である。本授業では、特に現職教員を中心に、特別支援教育コーディネーターに求められる資 質とは何かを学び、自らが学校を支援するコーディネーターとして、その力量を発揮できるための知識や 技能を身につける。					
対応するディ プロマ・ポリ シー						
到達目標	 1 特別支援教育コーディネーターが生まれた歴史的背景や理念等がわかる。 2 支援が必要な子どもに対する適切なアセスメントができ、それに基づいて、具体的な指導内容や方法が検討できる。 3 特別支援教育における校内支援体制確立のための諸課題を理解し、ふさわしい教育相談や具体的なチーム援助の在り方を理解する。 4 個別の指導計画とはどのようなものか理解し、事例から個別の指導計画を検討する 					
授業計画	【1日目】8月8日(土) 2校時10:30~5校時17:50 1 ガイダンス&特別支援教育に関わる基本事項 2 デキる「特別支援教育コーディネーター」になるために① 3 デキる「特別支援教育コーディネーター」になるために② 4 私と特別支援教育①(旭川:吉崎) 【2日目】8月9日(日) 2校時10:30~5校時17:50 5 校内支援体制における現状と課題 6 自校の支援体制・特別支援教育について交流しよう① 7 自校の支援体制・特別支援教育について交流しよう② 8 私と特別支援教育①(釧路:庄子) 【3日目】8月22日(土) 2校時10:30~5校時17:50 9 個別の指導計画の理解と作成① 10 個別の指導計画の理解と作成② 11 事例検討② 【4日目】8月23日(日) 2校時10:30~4校時16:10 13 事例発表&ケース検討会議②(インシデントプロセス法) 14 事例発表&ケース検討会議②(インシデントプロセス法) 15 講義のふりかえり					
成績評価	・各キャンパスの担当者		後のレポート等による総合評価 担当者が成績の評価を行なう。			
教職チェック リスト	学習指導力 特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な指導や支援の在り方を把握する。・個々の子どもの特性と環境ごとに生じうる困難性についての理解、アセスメントの基礎知識と代表的な検査方法の活用、特別支援教育に関連する指導方法					
テキスト	なし					
参考文献	小野寺基史・青山眞二・五十嵐靖夫著:「デキる「特別支援教育コーディネーター」になるための30レッスン&ワークショップ事例集」、明治図書、2013 特別支援教育士資格認定協会(編):「特別支援教育の理論と実践第2番Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、金剛出版、2012					
渕進9る授業	特別支援教育の理解と対	יטין ה				

科目	
オフィス・ア ワー	授業終了後 サテライト教室、講義室
備考(履修上 の注意等)	主)小野寺(札幌校)、吉崎(旭川校)、庄子(釧路校)、阿部(函)
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71041	現代社会と生徒指導			2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	I			
2020年度 後 期	木曜6限 木曜7限	講義、演習	稲葉 浩一				
科目ナンバリ ング							
科目区分	選択科目 「共通科目」を土台として,より専門的な知識・技能を学ぶ科目						
授業概要	本講義は教育社会学の観点から生徒指導およびそれを中心とした教育実践を扱う。その際のポイントとなるのが、「現代社会」という観点から生徒指導実践を見直すこととなるが、それでは「現代社会」とはいかなるものであるのか。その視点の獲得が不可欠となるだろう。そこで本講義では、広義での近代社会と学校教育の関係性について再確認したうえで、「学校化社会」とも呼ばれうる今日の社会の特徴を理解する。そのうえで、将来の社会の担い手となる児童生徒たちへの「指導」のあり方について、テーマごとに理解を深めていく。						
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	(1)現代社会の構造と学校教育の関係性について理解する。 (2)現代社会の特質を踏まえたうえで、児童生徒たちへの指導にかかわる各課題について理解する。 (3)現代社会に流通する教育言説・教育観を相対的にとらえ、吟味検討を行えるようになる。 (4)学んだ内容を自身の生徒指導実践に還元し、自身の経験を再構成する。						
授業計画	(3)現代社会に流通する教育言説・教育観を相対的にとらえ、吟味検討を行えるようになる。 (4)学んだ内容を自身の生徒指導実践に還元し、自身の経験を再構成する。 第1・2回 「現代社会」と学校の関係性 ①近代社会と学校教育制度 ②「学校化社会」とは ③「教えること」を専門とする仕事・『教師』 第3・4回 なぜ学校教育で「生徒指導」が必要なのか:デュルケム『道徳教育論』を読む ①規律の精神 ②社会集団への愛着 ③意志の自立性 第5・6回 「心理主義社会」と生徒指導 ①なぜ私たちは「心」に関心をもつのか ②子どもの逸脱をどうとらえるか、どう扱うか 第7・8回 生徒指導における現代的課題①:体罰 ①ディスカッション ②教育と「暴力」について考える 第9・10回 生徒指導における現代的課題②:不登校 ①ディスカッション ②「学校に行かないこと」は逸脱なのか? 第11回・12回 生徒指導における現代的課題③:いじめ ①ディスカッション ②「くいじめ〉かそうでないか」が重要なのか? 第13回・14回 生徒指導における現代的課題④:フリートピック ①ディスカッション ②が括 * 受講生の関心のもとトピックを決定する 第15回 補論とまとめ						
出席状況、討論(全体・各キャンパス)への参加姿勢、課題に対する 行う。 各キャンパスの担当者の評価に基づき協議の上、主担当者が成績の評							

教職チェック リスト	
テキスト	・テキストは使用せず、配布資料にて授業を行う。
参考文献	授業内にて適宜紹介するが、以下一例を挙げる。 【受講するうえで入手することが望ましい文献】 ・デュルケム(訳書),2010、『道徳教育論』講談社・北澤毅・間山広朗(編),2018、『教師のメソドロジー』北樹出版・古賀正義・山田哲也(編),2017、『現代社会の児童生徒指導』放送大学教育振興会・ 【講読を推奨する文献】 ・広田照幸・伊藤茂樹,2010、『教育問題はなぜ間違って語られるのか?』日本図書センター・ホックシールド(訳書),2000、『管理される心』世界思想社・イリイチ(訳書),1977、『脱学校の社会』創元社・北澤毅(編),2011、『教育"を社会学する』学文社・北澤毅(編),2011、『教育"を社会学する』学文社・キツセ(訳書),1985 『だれが進学を決定するか』金子書房・森真一,2000、『自己コントロールの檻』講談社・森田洋司,2010、『いじめとは何か』中央公論社・竹内洋,1995、『日本のメリトクラシー』東京大学出版会・内田樹,2005、『先生はえらい』筑摩書房・・上野千鶴子,2008、『サヨナラ、学校化社会』筑摩書房・・ウィリス(訳書),1996、『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房・・ウィリス(訳書),1996、『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房・・
関連する授業 科目	
ワー	・木曜日午後ほか、適宜相談を受けつける。 ・E-mail : inaba.koichi@a.hokkyodai.ac.jp 旭川キャンパス以外の受講生は、適宜副担当教員と相談のこと。ただし主担当者へのメール等の相談は随 時受け付ける。
備考(履修上 の注意等)	・本講義は「効果的な生徒指導の方法」や「児童生徒理解の技法」といった、教育実践のハウトゥを提供するものではないので、受講者は「授業概要」を理解したうえで参加すること。 ・「授業計画」は予定であり、受講者の関心や理解度に応じて適宜調整を加える。特に第1回〜第6回は時間的調整を行う可能性が高いので受講者は留意すること。 ・第7回〜第14回は、ディスカッション準備として事前学習(特定の論文の講読)を課す予定である。 副担当:札幌/小沼豊 釧路/室山俊美 函館/小田将之
教育実習やイ	
ンターンシッ プ等	
フラ 実務経験	
プマリカルエ列犬	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71042	子どもの逸脱行動への事	 €践的対応		2.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	1			
2020年度後期	月曜6限月曜7限	12.77/10/10/10	小沼 豊				
科目ナンバリ ング							
科目区分							
授業概要	は言を待たない。また、 くなってきており、生徒 するが、発生する前の予 通して正確に理解し、そ	児童生徒の逸脱行動に対応する上で、その極限的形態としての非行・犯罪について理解することの有益さは言を待たない。また、近年においては、自傷行為、対人関係のトラブルなどの非社会的な逸脱行動も多くなってきており、生徒指導上の対応を必要としている。生徒指導は、起きたことへの対応という面を有するが、発生する前の予防的介入、対応という面も有する。非行・犯罪を含む逸脱行動の現状をデータを通して正確に理解し、その発生の社会心理的メカニズムを理解することなどを通して、予防的介入や対応方策としての生徒指導のあり方を探る。					
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	・「逸脱行動」を起こし 解する。 ・「逸脱行動」への対応		理解する。そのこころの傷への手当が必要とい 計につける。	ハうことを理			
授業計画	6回目:規範装置として	習 解 からみる子どもの逸脱 の学校 非行対応-組織的対応 正の視点・事例検討					
成績評価	・評価は以下の観点から ・事例の討論(全体・名	指間の協議に基づき、主 5実施する 5キャンパス)において	後のレポート等 担当者が成績の評価を行う に、事例への理解や対応を具体的に検討でき、多 は評価と教員評価で判断、7回×10%=70%				
教職チェック リスト							
テキスト	教科書は使用しない。 適時、資料を配布する。						
参考文献							
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー	お手数ですが、各教員に	問い合わせて下さい。	連絡先などは初回の授業で提示します。				
備考(履修上 の注意等)	(主)小沼豊(札幌校),	水口正博(旭川校),	寺嶋正純(釧路校),三上清和(函館校)				
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71043	道徳教育の諸理論と	授業づくり		2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	•				
2020年度 前 期	月曜6限 月曜7限	講義・演習併合	水上 丈実					
科目ナンバリ ング								
科目区分	選択科目 「共通科目」を土	台として, より専門的	な知識・技能を学ぶ科目					
授業概要	道徳教育の重要性と 発する。	実践課題について学び	, 学校教育における道徳教育の計	画や道徳科の実践を創造・				
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	の授業構築を通し 〇改訂教育基本法及	○道徳教育の重要性や児童生徒の道徳性の発達についての理解を深め、道徳教育の計画や特別の教科道徳の授業構築を通して、道徳の実践的な指導力を高める。○改訂教育基本法及び現行の学習指導要領において充実・強化が求められている道徳科の授業づくり、そして、「特別の教科 道徳」に対する実践意欲をもつ。						
	1 道徳教育と道	i徳の時間の現状と課題 徳の時間の現状と課題 徳の時間(道徳科)の	, 特別の教科道徳新設の経緯					
	第2週 道徳教育の基礎とは① 6/22 3 道徳の親学問としての規範倫理学や道徳哲学 4 内容項目に関する哲学・倫理学的な検討							
	第3週 道徳教育の 5 道徳教育の諸 6 道徳科の授業で		づくり 6/29					
授業計画	第4週 道徳科の評 第4週 道徳科の評 7・8 道徳	価の考え方 科の評価の考え方と進	7/6 め方					
	第5週 道徳科の授業実践① 7/13 9・10 考え,論議する道徳の授業実践事例に学ぶ							
	第6週 道徳科の授業実践② 7/20 11・12 考え,論議する道徳の授業実践事例に学ぶ							
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	護設計 営業づくりの在り方を議 営業設計(指導案作成)	7/27 論 論 する					
	第8週 設計した道徳 15 4キャン	感の授業の発表交流 パス通しての発表交流	8/3 と授業の振り返り					
成績評価		· ·	性, 具体性など) 4割 貢献度, 発言の質など)3割 3割					
教職チェック リスト	てより深く理解する	。・教科内容の系統的	目を通し、特に専門科目の目的・ 理解、各校種ごとの内容のつなが ては、積極的に指導教員の指導を	り				
テキスト	学習指導要領解説	特別の教科 道徳						

関連する授業 科目	
オフィス・ア ワー	適宜,特に授業の翌日
備考(履修上 の注意等)	4キャンパスを双方向遠隔授業システムを結んで行う
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71044	学校課題俯瞰実習			5.0			
開講期		授業形態	担当教員				
1,132,137,13	前期(実習)、後期(実習)		野寺 克美				
科目ナンバリ ング			,				
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据え	て,その解決を図るよ	うな試行的実践と検証を行う科目				
授業概要	事前指導・実習、セミナ	ー・事後指導					
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	瞰するとともに、共通科連付けて理解できるよう・異校種1日訪問実習、校教育全般を俯瞰する。・自己の専門性を生かしともに、子ども理解に基	目で学ぶ教科指導、生かにする。 学校研究会参加を通し かた教科・領域等の授業 でく授業計画力、授業	の実習テーマに基づき観察・調査して学校全 徒指導、教育相談、学級経営、学校経営に関 て、様々な学校の教育活動の実際を学び、広 実践を通して、教師としての使命感・自覚を 指導力、授業分析力を養う。また、計画的・ で工基礎的な実践的指導力を培う。	する理論と関い視野から学			
授業計画	・実習の組織の選集をは、学校現場の組織の機能の担機の担場の組織の機能の関連をできる。 学校現場ではいいでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	日(金)・・・三上・松 問題とリーダーの役割 レートへの記入 日(水)~6月12日(金) 「一トへの記入 日(水)~6月12日(金) 「一トへの記入 日(水)~6月12日(金) 「一トへの記入 日(水)~6月12日(金) 「一トへの記入 日(水)~6月12日(金) 「一下で 日(水)~7年で 日(金)~1日月2日の 「一下で 日(金)~1日月2日ので 日(金)・・・して 日(金)・・・して 日(金)・・・して 日(金)・・・して 日(金)・・・して 日(金)・・・して 日(金)・・・・して 日(金)・・・・して 日(金)・・・・して 日(金)・・・・して 日(金)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(金) 4週間 (金) 4週間 (金) 4週間 (金) 4週間 (金) 4週間 (金) 4週間 (金) 4週間 (金) 1月30日 (金) 1月30日 (金) (金) (本) (金) (本) (金) (金) (大) (金) (6) (6) (6) (6) (7)				
成績評価	・事前指導、事後指導、・実習レポート、実習ノ	セミナーでのレジュメ					
教職チェック リスト							
テキスト							
参考文献							
関連する授業							

科目	
オフィス・ア	
ワー	
備考(履修上	
の注意等)	
教育実習やイ ンターンシッ プ等	
ンターンシッ	
プ等	
実務経験	

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71045	リーダーカ育成基礎実習	1		4.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		野寺 克美					
科目ナンバリ ング								
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据え	学校課題を中心に据えて, その解決を図るような試行的実践と検証を行う科目						
授業概要	事前指導・実習あるいは代替レポート・事後指導							
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標	て、教師間の協働による 実践する。院生はそのリ	組織づくりあるいは例 ーダーとして活動し、 題が教科指導、生徒指	:図ることを主たるねらいとする。院生は実習記護者や関係機関と連携した組織づくりを行っ 結果について考察を加え改善策を提案する。 記導、教育相談、学級経営、学校経営といった行。	て、解決策を				
授業計画	【事前指導①】 4月1 ・実習の目的 ・4領域の関連性と協働 ・レポート代替について ・レポート代替の検討 【事前指導②】 5月1 ・レポートの書き方 ・実習課題(代替レポー 【実習】 5月18日(月 【事後指導①】 7月1 ・実習レポートあるいは ・実習の成果と後期「リ	遂行力の重要性につい の説明 日(金)・・・森、各キ ト課題) に基づく討論 引)~6月30日(火) 0日(金) 代替レポートのレジコ	nて ヤンパス iì					
成績評価	事前指導・事後指導おけ 実習レポート、ノートある	るレジュメ、討論にお						
教職チェック リスト								
テキスト								
参考文献								
関連する授業 科目								
オフィス・ア ワー								
備考(履修上 の注意等)								
教育実習やイ ンターンシッ プ等								
実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名	単位				
71046	リーダーカ育成基礎実習	2		2.0				
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員					
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		野寺 克美					
科目ナンバリ ング								
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据えて,その解決を図るような試行的実践と検証を行う科目							
授業概要	事前指導・実習・事後指	導						
対応するディ プロマ・ポリ シー								
到達目標			解決に向け、その課題の位置付けを踏まえた_ 行い、2年次の実習で行う課題解決のための記					
授業計画	【事後指導】11月27 ・実習レポートのレジュ ・実習成果の確認	明 「木)〜11月13日(日(金)・・・各キャ メ発表、討論	金) 各勤務校あるいは連携協力校					
成績評価	・討論、発表の内容 ・実習ノート、実習レポ	<u>.</u> ⊢						
教職チェック								
リスト								
テキスト								
参考文献 関連する授業								
料目								
オフィス・アワー								
備考(履修上 の注意等)								
教育実習やイ ンターンシッ プ等								
実務経験								

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71047	学校運営実習			6.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員				
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		野寺 克美				
科目ナンバリ ング							
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据え	て, その解決を図るよ	うな試行的実践と検証を行う科目				
授業概要	事前指導・実習あるいは	代替レポート・中間指	導・事後指導				
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	大 学院在学中において、 が 必要である。このため 力 校において、必要にかり な取り組み状況や成が 析 するなどの省察をする (2)特別連携協力校に 己 の研究課題への省察	、学校を拠点にした調かに、包括的な学校改善なじてストレートマスを果、課題等を観察・調査のことで、協働遂行力があける包括的な学校改力をより深化させる。	働遂行力及び実践的指導力の一層の向上のため 査研究及び実践を積み重ね、それを継続的に振 善及び学校力の総合的な向上に取り組んでいる ターや初任者等のメンター役を務めながら、当 査するとともに、これまでの勤務校(前任校) や実践的指導力を磨く。 善等の状況を俯瞰・対象化して実習課題を深め	を お特別連携協 は該校の組織 と比較・分			
授業計画	【事前指導①】 4月1 ・実習の目的、実施要領 ・レポート、実習ノート ・実習課題に基づく討論 【実習】 4月20日(月 【中間指導】 7月27 ・実習前半での成果交流 【事後指導】 1月29 ・実習レポートのレジュ ・学校課題解決・検証実	iの理解 ・の書き方 i 引)~1月22日(金) 名 日 (月) 日(金) メ発表と討論	各連携協力校にて				
成績評価	事前指導・中間指導・事 実習レポート、ノート	後指導におけるレジュ	メ、討論における発表内容				
教職チェック リスト							
テキスト							
参考文献							
関連する授業 科目							
オフィス・ア ワー							
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やインターンシップ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71048	自己課題解決・検証実習			5.0			
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	•			
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		野寺 克美				
科目ナンバリ ング							
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据え	て,その解決を図るよ	うな試行的実践と検証を行う科目				
授業概要	事前指導・実習・事後指導						
対応するディ プロマ・ポリ シー							
到達目標	い、 その実効性につい	て検証する。この実習を	試行的実践を連携協力校の配属学級あるいは を通して、実際に学校現場に生起している課題 具体的解決策を提案できるだけの基礎的力量	を自ら見い			
授業計画	【事前指導】 4月10日(金) ・・・野寺、各キャンパス ・実習の目的、進め方について ・自己課題とその解決策の計画について 【実習】 4月20日(月)~7月8日(水) ・自己課題に応じた連携協力校(含:現職教員勤務校)での実習 【事後指導】 7月17日(金)・・・各キャンパス ・実習の成果と課題の発表と討論 ・MOBとの関連を図る。 ・実習の成果を確認し、課題解決・検証の結果について、実習レポートにまとめる。						
成績評価	事前指導・事後指導おけ 実習レポート、ノート	るレジュメ、討論にお	ける発表内容				
教職チェック リスト							
テキスト							
参考文献							
関連する授業 科目							
オフィス・アワー							
備考(履修上 の注意等)							
教育実習やイ ンターンシッ プ等							
実務経験							

科目番号	授業科目		英語科目名	単位	
71049	学校課題解決・検証実習	}		4.0	
開講期	曜日・時限	授業形態	担当教員	1	
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)		野寺 克美		
科目ナンバリ ング					
科目区分	学校における実習 学校課題を中心に据え	て,その解決を図るよ	うな試行的実践と検証を行う科目		
授業概要	事前指導・実習・事後指	導			
対応するディ プロマ・ポリ シー					
到達目標	初 任教員等のメンターを る とともに、これまでは を 磨く。 (2)連携協力校におけ 研 究課題への省察力を (3)学校課題の解決に る いは学年で取組み、 り	役を務めながら、当該なの勤務校と比較・分析であると話的な学校改善等より深化させる。 は向けて、具体的な解決	向上に取り組んでいる連携協力校において、東 交の組織的な取り組み状況や成果、課題等を観 するなどの省察をすることで、協働遂行力や実 の状況を俯瞰・対象化して実習課題を深める。 策をもって、勤務校の教師集団の理解のもとし える。この検証を通して、自己の実践を理論に とともに現実的な学校課題解決への実践力とし	観察・調査す 選践的指導力 ととも自己の こ学校全体あ こ照らして振	
授業計画	【事前指導①】 令和2年4月17日(金) ・実習の目的、実施要領の理解 ・レポート、実習ノートの書き方 ・実習課題に基づく討論 【実習】 4月20日(月)~1月22日(金) 各連携協力校にて 【中間指導】 7月27日(月) ・実習前半での成果交流 【事後指導】 1月29日(金) ・実習レポートのレジュメ発表と討論				
成績評価	事前指導・中間指導・事 実習レポート、ノート	後指導におけるレジュ	メ、討論における発表内容		
教職チェック リスト					
テキスト					
参考文献					
関連する授業 科目					
オフィス・ア ワー					
備考(履修上 の注意等)					
教育実習やイ ンターンシッ プ等					

科目番号	授業科目		英語科目名	単位			
71050	マイオリジナルブック作		Seminar on practical work for my original boo	2.0			
			ks ks				
	曜日・時限	授業形態	担当教員				
2020年度 前 期~後期	前期(実習)、後期 (実習)	演習・実習	修学支援G 札幌				
科目ナンバリ ング							
科目区分	共通演習 大学院で学んだことの)集大成としての科目((マイオリジナルブックの作成)				
授業概要	実証的研究を「マイオリ (1) 共通科目とコース 己の課題を抽出する (2)抽出した課題を研	(2)抽出した課題を研究主題としてふさわしい形に設定する (3)設定した主題について、指導教員と共に解決方法や研究方法を探求し、実践的、実証的に研究す					
対応するディ	門的能力を身につけるご 授与する。 1. 学校現場における語ることのできる、高度専 2. 学校現場における教	とを目的に設定された	課題について、以下のような理論と実践に関 授業科目のうち、修了に必要な単位を修得した 体や地域を俯瞰して広い視野から分析し、その 、研究・実践力。 級・学校経営、生徒指導、教育相談)の改善 を構築することで推進する力。	た者に学位を の解決に当た			
 到達目標			することが可能なまとめとなっていること				
授業計画	第1回:現時点での実践 第2回~14回:MOB完成	・研究を振り返り、どの までの個別指導を行う	のような形でMOBを作成するか、その方針を決	快める			
成績評価	第15回: MOB発表会へ向けての準備を行う ●評価は、当該院生の主担当の指導教員が行う ●各指導教員は教職大学院における教育課程をふまえ、下記の観点を中心として評価する(注) ・学校現場に生起する諸課題の解決・対応に活用できるか ・理論と実践の関係及びその研究方法に自覚的か ・データや素材等の選択、取扱いが適切か ・先行研究・実践、関連研究・実践に関する検討が適切か ・全体の構成及び表現が適切か						
	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現	軽択、取扱いが適切か 引連研究・実践に関する 乱が適切か		<u>-</u>			
教職チェック リスト	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現	軽択、取扱いが適切か 引連研究・実践に関する 乱が適切か	検討が適切か	<u>-</u>			
教職チェック	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現	軽択、取扱いが適切か 引連研究・実践に関する 乱が適切か	検討が適切か	-			
教職チェック リスト	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現 注:「北海道教育大学人	軽択、取扱いが適切か 引連研究・実践に関する 乱が適切か	検討が適切か				
教職チェック リスト テキスト	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表明 注:「北海道教育大学人 各指導教員による	軽択、取扱いが適切か 引連研究・実践に関する 乱が適切か	検討が適切か	k-			
教職チェック リスト テキスト 参考文献 関連する授業 科目 オフィス・ア ワー	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表明 注:「北海道教育大学人 各指導教員による 各指導教員による	選択、取扱いが適切か 別連研究・実践に関する 記が適切か 学院高度教職実践専攻 情間。場所は各教員の研	検討が適切か				
教職チェック リスト テキスト 参考文献 関連する授業 科目 オフィス・ア	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現注:「北海道教育大学大 注:「北海道教育大学大 各指導教員による 各指導教員による 授業の行われる前後の関	選択、取扱いが適切か 別連研究・実践に関する 記が適切か 学院高度教職実践専攻 情間。場所は各教員の研	検討が適切か z 研究紀要第2号」のMOB特集等を参照のこと				
教職チェック リスト テキスト 参考文献 関連する授業 科目 オフィス・ア ワー 備考(履修上	・先行研究・実践、関 ・全体の構成及び表現注:「北海道教育大学大 注:「北海道教育大学大 各指導教員による 各指導教員による 授業の行われる前後の関	選択、取扱いが適切か 別連研究・実践に関する 記が適切か 学院高度教職実践専攻 情間。場所は各教員の研	検討が適切か z 研究紀要第2号」のMOB特集等を参照のこと				